

# 滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会 第1回会議

## 配付資料一覧

### 1 協議会関係資料

資料1-1	滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会会議傍聴要領	P.1
資料1-2	滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会設置要綱	P.2
資料1-3	滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会委員名簿	P.3
資料1-4	滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会について	P.4
資料1-5	滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会のスケジュールについて	P.5
資料1-6	滋賀県公立高等学校入学者選抜制度改正大綱	P.6
資料1-7	滋賀県立高等学校入学者選抜方法等の改善経過	P.9

### 2 学校関係基礎資料

資料2-1	県内高等学校生徒数・本務教員数・学級数一覧	P.11
資料2-2	県内高等学校配置図（県立・私立）	P.13
資料2-3	県立高等学校課程・学科地域別配置一覧	P.15
資料2-4	中学校、義務教育学校および特別支援学校中等部卒業予定者の 進路志望状況（令和4年1月調査）	P.16
資料2-5	中学校および義務教育学校卒業者の高等学校等進学者の進路状況	P.21
資料2-6	中学校および義務教育学校卒業（予定）者数の推移（県全体・地域別）	P.24
資料2-7	これからの県立高等学校の在り方について-答申概要-（令和3年10月）	P.26

### 3 入学者選抜関係基礎資料

資料3-1	滋賀県立高等学校入学者選抜の概要	P.27
資料3-2	全国の公立高等学校入学者選抜の実施状況	P.30
資料3-3	令和3年度滋賀県立高等学校入学者選抜結果まとめ	P.37
資料3-4	推薦選抜の出願倍率・合格率等の推移	P.58
資料3-5	特色選抜の出願倍率・合格率等の推移	P.58
資料3-6	スポーツ・文化芸術選抜の出願倍率・合格率等の推移	P.59
資料3-7	一般選抜・二次選抜の受検倍率・合格率等の推移	P.60
資料3-8	一般選抜における出願変更率の推移	P.60
資料3-9	全国募集の状況	P.61
資料3-10	県内中学校卒業予定者のうち、県立高校への入学許可予定者の占める割合	P.61
資料3-11	海外帰国生徒（海外帰国生徒、外国人生徒）の出願等の状況	P.62
資料3-12	定時制の状況	P.63
資料3-13	単位制 転・編入学、通信制課程の状況	P.64

## 滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会 会議傍聴要領

## 滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会

滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会の会議を傍聴される方は、次の事項を遵守してください。

## 1 傍聴する場合の手続

- (1) 傍聴を希望される方は、所定の時刻までに直接会場前の受付へお越しください。
- (2) 定員を超える場合は、抽選を行い傍聴者を決定します。
- (3) 傍聴希望者の数が定員に満たない場合は、定員に達するまで先着順で傍聴を受け付けます。
- (4) 傍聴者は、係員の指示に従って会場へ入場し、所定の席に着席してください。

## 2 傍聴する際の遵守事項

会議の傍聴に際しては、次の事項を遵守してください。

- (1) 会議の開催中は、静かに傍聴すること。拍手その他の方法により賛成、反対等の意向を表明しないこと。
- (2) 飲食、喫煙等をしないこと。
- (3) 会長が認めた場合以外は、写真撮影、録画、録音等を行わないこと。
- (4) 非公開となる議題の前に指示があったときは、速やかに退席すること。
- (5) その他会場の秩序を乱したり、会議の支障となる行為をしないこと。

## 3 会議の秩序の維持

- (1) 2の事項を遵守するほか、会場内では、係員の指示に従ってください。
- (2) 遵守事項に違反した場合には、注意を促します。なお、注意に従わないときは、退席していただくことがあります。

## 4 その他

不明な点があれば、係員にお問い合わせください。

付 則

この要領は、令和4年3月17日から施行する。

## 滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会設置要綱

### (趣旨)

第1条 学習指導要領に沿った健全な中学校教育と地域や生徒の実態に応じた活力と潤いのある高等学校教育の実現に資するよう、高等学校入学者選抜方法等のあるり方について検討を行うため、滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（略称「入試改善協」、以下「協議会」という。）を設置する。

### (任務)

第2条 協議会は、高等学校入学者選抜方法のあるり方に関し、滋賀県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が必要と認める事項について協議し、教育長に提言する。

### (組織)

第3条 協議会は、次に掲げる委員をもって組織し、教育長が委嘱または任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 市町教育委員会関係者
- (3) 高等学校関係者
- (4) 中学校関係者
- (5) 保護者関係者

2 協議会に会長および副会長2名を置き、委員の中から選出する。

3 会長は協議会の会務を総理するものとし、副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行するものとする。

4 協議会の事務局は、滋賀県教育委員会事務局高校教育課に置く。

### (専門委員)

第4条 協議会に、特別の事項を調査審議させるため必要があるときは、専門委員を置くことができる。

### (委員の任期)

第5条 委員の任期は施行日から令和5年度末までとする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 専門委員は、当該の特別の調査審議が終了したときは、解任されるものとする。

### (会議)

第6条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 会議の議長は、会長をもってあてる。

3 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決する。可否同数のときは議長が決する。

### (小委員会)

第7条 協議会には、必要に応じて小委員会を置くことができる。

2 小委員会に関し、必要な事項は会長が別に定める。

### (意見の聴取)

第8条 協議会が必要と認めるときは、関係者の意見を聞くことができる。

### (補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は会長が定める。

### 付 則

この要綱は、令和4年3月1日から施行する。

## 滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会委員名簿

任期：令和4年3月17日から令和6年3月31日まで

	氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
1	若 松 養 亮	滋 賀 大 学 教 育 学 部 教 授	
2	井 手 慎 司	滋賀県立大学環境科学研究科 教 授	
3	原 清 治	佛教大学教育学部 教 授 副学長	
4	馬 淵 均	米 原 市 教 育 委 員 会 教 育 長	
5	松 浦 加代子	湖 南 市 教 育 委 員 会 教 育 長	
6	寺 田 佳 司	滋賀県私立中学高等学校連合会 副会長	立命館守山中学校・ 高等学校 校長
7	杉 原 真 也	県立守山中学校・高等学校 校 長	
8	樋 口 啓 子	県 立 石 山 高 等 学 校 校 長	
9	白 井 正 士	県立長浜農業高等学校 校 長	
10	武 原 正 樹	県立草津東高等学校 教 頭	
11	小 南 美穂子	県 立 河 瀬 高 等 学 校 主幹教諭	
12	加 藤 三 男	彦根市立中央中学校 校 長	
13	都 賀 正 樹	大津市立青山中学校 校 長	
14	浦 島 容 子	高島市立マキノ中学校 校 長	
15	山 本 久美子	東近江市立湖東中学校 校 長	
16	福 井 洋 枝	守山市立明富中学校 教 頭	
17	炭 谷 将 史	滋賀県公立高等学校PTA連合会 会 長	県立守山中学校・高等学校
18	塚 本 晃 弘	滋賀県P T A連絡協議会 会 長	東近江市立聖徳中学校



## 滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会のスケジュールについて

会議等	開催年月日	主な協議内容
第1回	令和4年 3月17日(木) 10:00~12:00	協議会設置要綱について 役員選出 今後の進め方について 入学者選抜の現状について
第2回	令和4年 5月下旬	令和8年度入学者選抜に向けた制度の在り方について ・協議会の論点整理 多面的な観点で評価するための選抜方法についての協議
(調査研究)	令和4年6月から 令和4年7月	アンケート集約・分析 ※対象は、抽出統計 学校関係者(中学校・高等学校)と生徒(高校生)
第3回	令和4年 8月中旬	現行入試システムについての協議 ・特色選抜の今後のあり方について ・回数、受検機会について ・複数回実施のメリットとデメリットについて
第4回	令和4年 11月中旬	現行入試システムについての協議 ・スポーツ文化芸術選抜の今後のあり方について ・通信制や転編入試との制度や日程等について ※専門委員の委嘱(スポ文、転編関係)
第5回	令和5年 2月上旬	外国人生徒等の選抜について 入試DXについて 中間報告(案)について
(調査研究)	令和5年 2月中旬	DX化を進めている先進県に視察 福井県・県内私学等
(意見聴取)	令和5年 3月中旬	中間報告に対する意見聴取の実施
第6回	令和5年 5月中旬	中間報告に対する意見への対応について
第7回	令和5年 8月中旬	報告(素案)について
第8回	令和5年 10月上旬	報告(案)について

令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
第1回協議会 (3月)	第2回協議会 (5月)	第6回協議会 (5月)		滋賀 国スポ・障スポ	
	第3回協議会 (8月)	第7回協議会 (8月)		令和8年度 入試要項公表	
	第4回協議会 (11月)	第8回協議会 (10月)最終			
	第5回協議会 (2月)	★報告書公表 (11月)			
	★中間報告 (3月)				
	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	高校1年生

## 滋賀県公立高等学校入学者選抜制度改正大綱

## 第1 全日制および定時制課程における入学者選抜

「一般選抜」、「推薦選抜」・「特色選抜」および「スポーツ・文化芸術推薦選抜」とする。

推薦選抜・特色選抜については、全日制の課程においては学校または学科によっていずれかを実施するものとする。

スポーツ・文化芸術推薦選抜については、スポーツ強化拠点校または文化芸術推進強化校の指定を受けた全日制および定時制の課程が、県教育委員会と協議のうえ、実施するものとする。

## 1 一般選抜は、次に定めるところにより行う。

## (1) 検査期日等

ア 全日制および定時制（単位制の転入学・編入学を除く。以下同じ。）の課程の検査期日は、同日程とする。

イ 出願後、1回に限り、他の学校、学科（科）へ、その出願を変更できるものとする。

ウ 入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学科（科）については、二次選抜を行うものとする。

## (2) 学力検査実施教科等

ア 学力検査実施教科は、国語、数学、社会、理科および外国語（英語）の5教科を原則とする。

イ 滋賀県教育委員会（以下「県教育委員会」という。）と協議のうえ、面接、作文または実技検査のいずれか一つを課することができる。この場合において、学力検査実施教科の数を減じることができる。

ウ 二次選抜においては、面接および作文を実施する。

エ 定時制課程においては、満21歳以上の志願者で希望する者について、学力検査を面接および作文をもって代えることができる。

## (3) 配点

ア 学力検査実施教科の配点は各教科100点を標準とする。

面接、作文または実技検査の配点は50点から100点までとする。

イ 県教育委員会と協議のうえ、学力検査実施教科の配点に比重をかけることができる。

## (4) 入学者の選抜

ア 学力検査実施教科等の結果と個人調査報告書を資料として行う。

この場合において、個人調査報告書の特別活動等（ボランティア活動、スポーツ活動、文化活動等）、ならびに総合的な学習の時間の記載事項については積極的に評価するものとする。

イ 二次選抜においては、アで定める個人調査報告書のほか、(2)ウで課した面接、作文の結果を資料とする。ただし、学力検査実施教科の結果を参考資料とすることができる。

## 2 推薦選抜・特色選抜は、次に定めるところにより行う。

## (1) 検査期日

推薦選抜と特色選抜の検査期日は、同一日とする。

(2) 募集枠

推薦選抜・特色選抜における募集枠は、体育科、音楽科および美術科を除き、原則として、募集定員の50%を超えないものとする。

(3) 推薦選抜

全日制および定時制の課程にあつては、県教育委員会と協議のうえ、推薦選抜を実施することができる。

ア 出願できる者

学校または学科の推薦要件に適する者で、中学校長の推薦を受けたものとする。

イ 検査方法

面接、作文または実技検査のいずれか二つ以内を課すものとする。

ウ 入学者の選抜

個人調査報告書、推薦書およびイで課した面接、作文または実技検査の結果を資料として行う。

この場合において、特別活動等および総合的な学習の時間の記載事項については積極的に評価するものとする。

(4) 特色選抜

全日制および定時制の課程にあつては、県教育委員会と協議のうえ、特色選抜を実施することができる。

ア 検査方法等

学校または学科の特色に応じた選抜を行うものとし、口頭試問、小論文、実技検査または総合問題のうちいずれか二つ以上を課すものとする。

なお、志願者全員が志願理由書を提出するものとする。

イ 入学者の選抜

個人調査報告書、志願理由書、およびアで課した、口頭試問、小論文、実技検査または総合問題の結果を資料として行う。

この場合において、特別活動等および総合的な学習の時間の記載事項については積極的に評価するものとする。

3 スポーツ・文化芸術推薦選抜は、次に定めるところにより行う。

(1) 検査期日等

ア 検査期日は、推薦選抜・特色選抜と同一日または翌日とする。

イ 出願先高等学校の同一課程、同一学科または同一科において実施される「推薦選抜」または「特色選抜」を併願することができる。

(2) 募集枠

スポーツ・文化芸術推薦選抜における募集枠は、次に掲げるすべての要件を満たすものとする。ただし、体育科、音楽科および美術科については、この限りでない。

ア 推薦選抜・特色選抜およびスポーツ・文化芸術推薦選抜の募集枠の合計が、募集定員の50%を超えないものとする。

イ スポーツ・文化芸術推薦選抜における募集枠が、推薦選抜・特色選抜における募集枠の50%を超えないものとする。

ウ 1指定競技・部門・種目につき10名以内とする。



### (3) 実施内容等

#### ア 出願できる者

学校または学科のスポーツ活動、文化芸術活動の推薦要件に適する者で、中学校長の推薦を受けたものとする。

#### イ 検査方法

実技検査を実施するとともに、面接、作文または小論文のうちから一つを課すものとする。

ただし、適性検査を実施する学校・学科にあつては、実技検査を行わず、適性検査をもってこれに代えることができ、また、特色選抜実施校は、特色選抜の総合問題を合わせて実施することができる。

#### ウ 入学者の選抜

個人調査報告書、推薦書およびイで課した検査の結果を資料として行う。

この場合において、特別活動等におけるスポーツ活動または文化芸術活動の記載事項については積極的に評価するものとする。

## 4 適性検査

専門学科およびスポーツ・文化芸術推薦選抜を実施する学校・学科においては、県教育委員会と協議のうえ、適性検査を実施することができる。

## 第2 通信制の課程における入学者選抜

- 1 検査期日は、全日制および定時制の課程の検査期日とは別の日程とする。
- 2 入学許可予定者数が、募集定員に満たなかったときは、二次選抜を行うものとする。
- 3 出願時に面接を課すものとする。

## 第3 その他

入学者選抜実施要項の作成にあたっては、各高等学校は、入学者選抜実施要項を作成し、県教育委員会を通じて公表する。

#### 付 則

この大綱は、平成6年度滋賀県公立高等学校入学者選抜から実施する。

#### 付 則

この大綱は、平成7年度滋賀県公立高等学校入学者選抜から実施する。

#### 付 則

この大綱は、平成9年度滋賀県公立高等学校入学者選抜から実施する。

#### 付 則

この大綱は、平成10年度滋賀県公立高等学校入学者選抜から実施する。

#### 付 則

この大綱は、平成15年度滋賀県公立高等学校入学者選抜から実施する。

#### 付 則

この大綱は、平成18年度滋賀県公立高等学校入学者選抜から実施する。

#### 付 則

この大綱は、平成29年度滋賀県公立高等学校入学者選抜から実施する。

## 滋賀県立高等学校入学者選抜方法等の改善経過

資料1-7

改善協議会実施年度	検 討 主 題	協 議 内 容	改正大綱の実施入試年度
平成4年度 平成4年6月30日 ～平成5年2月12日	滋賀県公立高等学校入学者選抜方法の在り方について	第1回 ・改善協議会設置要綱について ・会長、副会長の選出 ・今後の進め方について	
		第2回 ・新学習指導要領が目指す学力観に立った学力検査の在り方について ・学校・学科等の特色に応じた選抜方法と受験機会の拡大について	
		第1回小委員会 ・前回協議会のまとめに基づき、実現するための課題や解決策について	
		第3回 ・多段階の入学者選抜について ・学力検査の在り方(傾斜配点、選択問題等) ・選抜資料としての調査書の在り方	
		第2回小委員会 ・多段階の入学者選抜について ・学力検査の在り方(傾斜配点、選択問題等) ・選抜資料としての調査書の在り方	
		第3回小委員会 ・多段階の入学者選抜について ・学力検査の在り方(傾斜配点、選択問題等) ・選抜資料としての調査書の在り方	
		第4回 ・報告書の審議	平成5年5月改正 平成6年度入学者選抜より実施
平成7年度より福祉科、美術科、体育科の設置が決まり、改正大綱の一部改正が必要となったため			平成6年5月改正 平成7年度入学者選抜より実施
平成8年度 平成8年6月11日 ～平成9年2月14日	滋賀県公立高等学校入学者選抜方法の在り方について	第1回 ・改善協議会設置要綱について ・役員選出 ・今後の進め方について ・推薦入学枠の拡大について	
		第2回 ・推薦入学枠の拡大について(中間報告) ・推薦実施の学校・学科の拡大について	平成8年6月改正 平成9年度入学者選抜より実施
		第3回 ・受験機会の複数化について ・入学者選抜資料の工夫について	
		第4回 ・調査書について ・入試日程等について	
		第5回 ・その他の入学者選抜方法等改善について ・報告書の骨子について	
		第6回 ・報告書の審議	平成9年7月改正 平成10年度入学者選抜より実施
平成12年度 平成12年6月16日 ～平成13年2月26日	各高校の特色ある学校づくりを推進する入学者選抜方法等の在り方について	第1回 ・改善協議会設置要綱について ・役員選出 ・今後の進め方について	
		第2回 ・中学校の進路指導の在り方について 生徒の主体的な進路選択の推進について 授業時間の確保について	
		第3回 ・中学校の進路指導の在り方について(継続) ・高校における特色ある学校づくりについて 推薦入学について 学力検査等の実施上の工夫について	
		第4回 ・高校における特色ある学校づくりについて(継続) ・その他、入学者選抜に関すること 入学者選抜実施上の特別配慮について	
		第5回 ・報告書の骨子について	
		第6回 ・報告(案)の審議	
		第7回 ・意見募集の結果について ・報告の審議	平成14年4月改正 平成15年度入学者選抜より実施
県立高等学校普通科の通学区域制度の在り方について(答申) 平成16年6月			

改善協議会実施年度	検討主題	協議内容	改正大綱の実施入試年度
平成16・17年度 平成16年9月7日 ～平成17年11月9日	各高校の特色ある学校づくりを推進する入学者選抜方法等のあり方について	第1回 ・改善協議会設置要綱について ・役員選出 ・今後の進め方について ・通学区域の全県一区における入試制度のあり方 通学区域の全県一区にともなう選抜方法等の工夫について	
		第2回 ・通学区域の全県一区における入試制度の在り方 通学区域の全県一区にともなう選抜方法等のあり方 学校・学科の特色に応じた選抜方法について	
		第3回 ・通学区域の全県一区における入試制度のあり方 通学区域の全県一区にともなう選抜方法等のあり方 学校・学科の特色に応じた選抜方法について	
		第4回 ・通学区域の全県一区における入試制度のあり方 通学区域の全県一区にともなう選抜方法等のあり方 学校・学科の特色に応じた選抜方法について ・中間報告(案)の審議	平成17年2月改正 平成18年度入学者選抜より実施
		第5回 ・その他、入学者選抜に関すること 入学者選抜実施上の特別配慮について その他	
		第6回 ・報告書の骨子について	
		第7回 ・報告(案)の審議	
平成27年度 平成27年9月7日 ～平成28年3月18日	各高校の特色に応じた、生徒の主体的な進路選択を推進する入学者選抜方法等のあり方について	第1回 ・改善協議会設置要綱について ・役員選出 ・今後の進め方について ・入学者選抜の現状について(意見交換)	
		第2回 ・学校・学科の特色に応じた選抜方法の協議について 特色ある入学者選抜(スポーツ活動、文化活動に優れた体験や実績を有する者の選抜)の在り方について	
		第3回 ・学校・学科の特色に応じた選抜方法の協議について(継続) ・報告(案)の審議	
		第4回 ・意見募集の結果について ・報告の審議	平成28年1月改正 平成29年度入学者選抜より実施

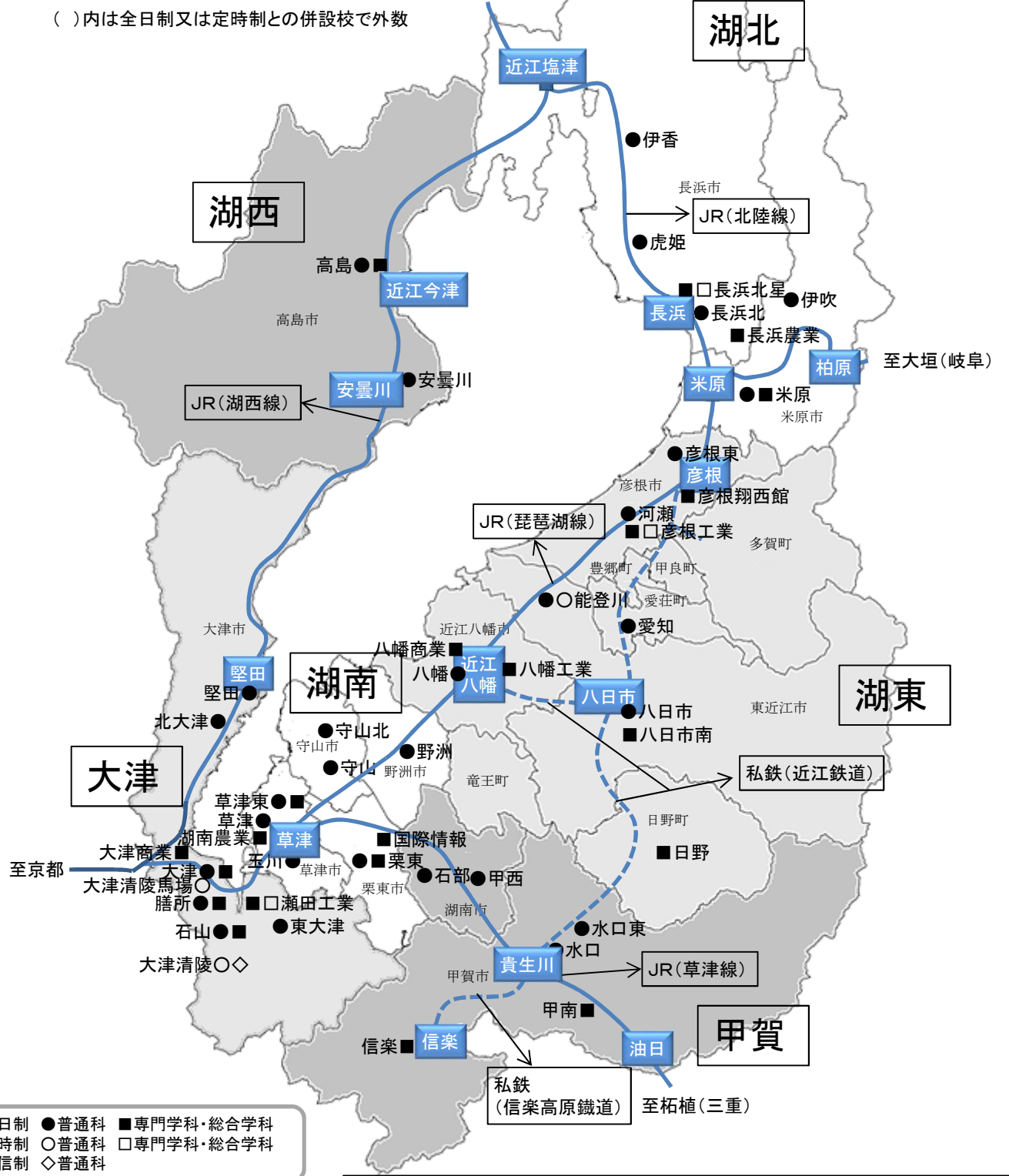




県立高等学校配置図(令和3年度)

課程	本校	分校
全日制	44校	
定時制	1校(4校)	1校
通信制	(1校)	

( )内は全日制又は定時制との併設校で外数



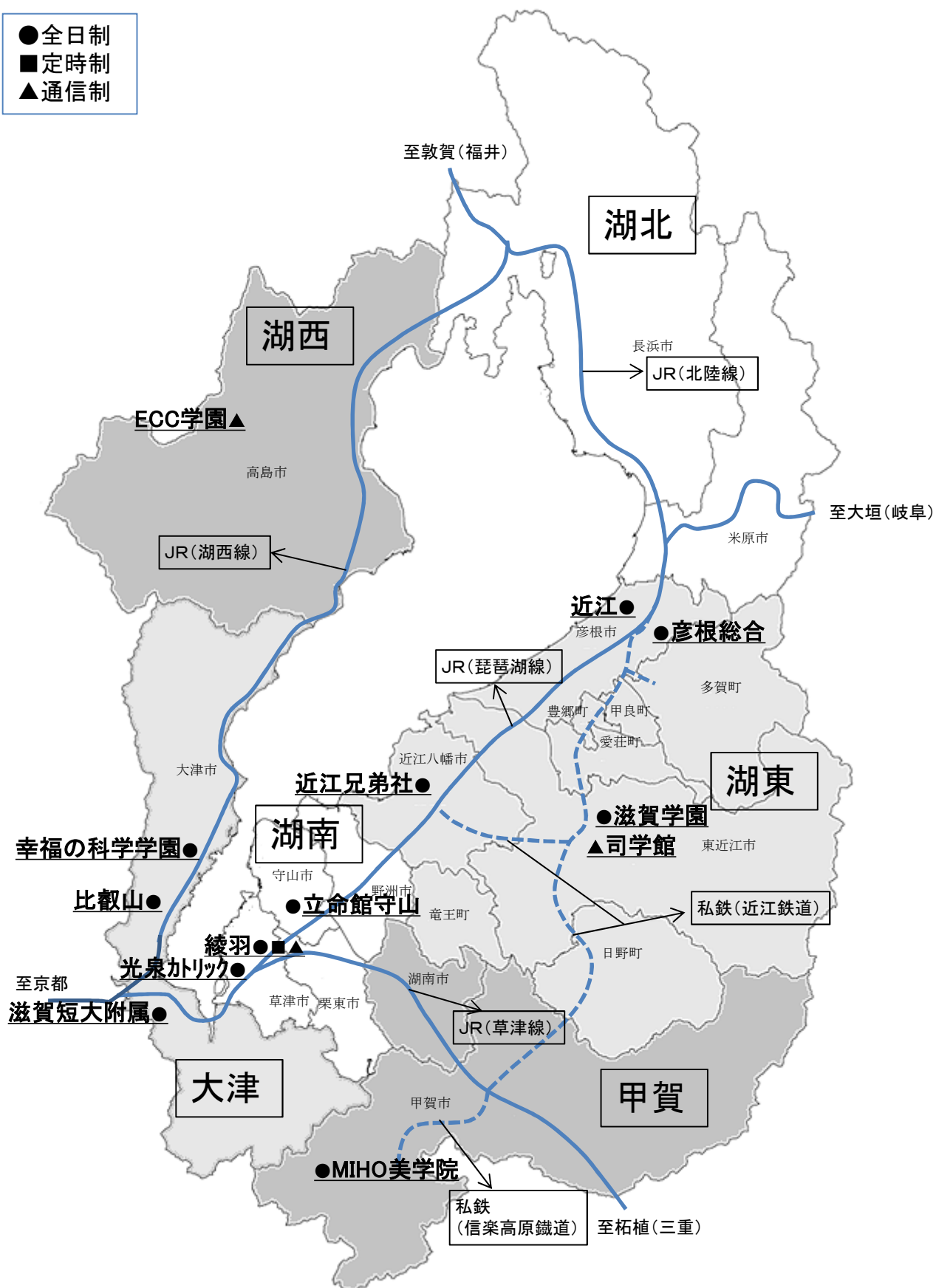
全日制 ●普通科 ■専門学科・総合学科  
 定時制 ○普通科 □専門学科・総合学科  
 通信制 ◇普通科

————— JR  
 - - - - - 私鉄

地域は、次のとおり区分している。  
 大津：大津市 湖南：草津市、守山市、栗東市、野洲市  
 甲賀：甲賀市、湖南市  
 湖東：彦根市、近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町  
 湖北：長浜市、米原市 湖西：高島市

# 県内私立高等学校等の配置図(令和3年度)

- 全日制
- 定時制
- ▲ 通信制



- JR
- - - 私鉄

地域は、次のとおり区分している。  
 大津: 大津市 湖南: 草津市、守山市、栗東市、野洲市  
 甲賀: 甲賀市、湖南市  
 湖東: 彦根市、近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町  
 湖北: 長浜市、米原市 湖西: 高島市

## 県立高等学校課程・学科地域別配置一覧（令和3年度）

## 【全日制課程】

		大津	湖南	甲賀	湖東	湖北	湖西	学校数	計
普通科单独		堅田 東大津 北大津	草津 玉川 守山 守山北 野洲	水口 水口東 石部 甲西	彦根東 河瀬 八幡 八日市 能登川 愛知	長浜北 伊吹 虎姫 伊香		22	29
普通科	+ 農業							0	
	+ 工業							0	
	+ 商業							0	
	+ 家庭	大津						1	
	+ 音楽	石山						1	
	+ 理数	膳所				米原		2	
	+ 体育		草津東					1	
	+ 美術		栗東					1	
	+ 文理探究						高島	1	
+ 総合							0		
農業科单独			湖南農		八日市南	長浜農		3	3
工業科单独		瀬田工			彦根工 八幡工			3	3
商業科单独		大津商			八幡商			2	2
総合学科单独			国際情報	甲南 信楽	日野 彦根翔西館	長浜北星	安曇川	7	7
学校数		8	9	6	12	7	2	44	44

## 【定時制課程】

		大津	湖南	甲賀	湖東	湖北	湖西	学校数	計
普通科单独		大津清陵 大津清陵 馬場分校			能登川			3	3
工業科单独		瀬田工			彦根工			2	2
総合学科单独						長浜北星		1	1
学校数		3	0	0	2	1	0	6	6

## 【通信制課程】

		大津	湖南	甲賀	湖東	湖北	湖西	学校数	計
普通科单独		大津清陵						1	1
学校数		1	0	0	0	0	0	1	1



## 中学校、義務教育学校および特別支援学校中学部卒業予定者の進路志望状況（1月調査）

対象…中学校103校（国立1、県立3、市町立93、私立6）、義務教育学校2校、特別支援学校中学部13校（国立1、県立12）

### 【1表】 進路志望の内訳

（上段 人、下段 %）

区分	卒業 予定者 総数 (A~G)	高等学校等進学志望者 ※1			専修学校 (高等課程) 志望者 B	専修学校 (一般課程) 等志望者 ※2 C	公共職業能 力開発施設 等志望者 ※3 D	就職 志望者 E	その他 進路 ※4 F	不詳等 ※5 G	A~Dのうち 就職 志望者 (再掲)
		高等学校 高等専門学校	特別支援 学校高等部	小計 A							
H30年	14,171	13,766	309	14,075	6	7	4	27	52	0	5
	100.0	97.1	2.2	99.3	0.0	0.0	0.0	0.2	0.4	0.0	0.0
R1年	13,942	13,522	333	13,855	2	7	2	22	54	0	1
	100.0	97.0	2.4	99.4	0.0	0.1	0.0	0.2	0.4	0.0	0.0
R2年	13,435	13,039	318	13,357	7	6	1	21	42	1	2
	100.0	97.1	2.4	99.4	0.1	0.0	0.0	0.2	0.3	0.0	0.0
<b>R3年</b>	<b>13,976</b>	<b>13,491</b>	<b>395</b>	<b>13,886</b>	<b>5</b>	<b>5</b>	<b>2</b>	<b>22</b>	<b>55</b>	<b>1</b>	<b>0</b>
	<b>100.0</b>	<b>96.5</b>	<b>2.8</b>	<b>99.4</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.2</b>	<b>0.4</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>
性別 男	7,302	6,984	266	7,250	3	1	2	16	30	0	0
	100.0	95.6	3.6	99.3	0.0	0.0	0.0	0.2	0.4	0.0	0.0
女	6,674	6,507	129	6,636	2	4	0	6	25	1	0
	100.0	97.5	1.9	99.4	0.0	0.1	0.0	0.1	0.4	0.0	0.0
地域 大津	3,252	3,154	77	3,231	2	1	0	5	13	0	0
	100.0	97.0	2.4	99.4	0.1	0.0	0.0	0.2	0.4	0.0	0.0
湖南	3,716	3,583	115	3,698	1	0	0	4	13	0	0
	100.0	96.4	3.1	99.5	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.0	0.0
甲賀	1,376	1,313	48	1,361	1	1	0	1	11	1	0
	100.0	95.4	3.5	98.9	0.1	0.1	0.0	0.1	0.8	0.1	0.0
湖東	3,749	3,621	107	3,728	0	1	1	6	13	0	0
	100.0	96.6	2.9	99.4	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.0	0.0
※6 湖北	1,513	1,458	41	1,499	1	2	1	5	5	0	0
	100.0	96.4	2.7	99.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.3	0.0	0.0
湖西	370	362	7	369	0	0	0	1	0	0	0
	100.0	97.8	1.9	99.7	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0

※1 「高等学校等進学志望者」とは、高等学校、高等専門学校および特別支援学校の高等部への進学志望者を指す（就職しながらの進学志望者を含む）。

※2 「専修学校（一般課程）等志望者」には、各種学校への入学志望者を含む。

※3 「公共職業能力開発施設」とは、職業訓練を行うために設置された施設をいう。

※4 「その他進路」とは、臨時的な仕事を志望する者、外国の高等学校等への入学を志望する者、福祉施設・医療機関へ入所する者等を指す。

※5 「不詳等」とは、所在が分からない等で志望を聴取できない者を指す。

※6 地域は、中学校、義務教育学校および特別支援学校の所在地で次のとおり区分している。

大津……大津市

湖南……草津市、守山市、栗東市、野洲市

甲賀……甲賀市、湖南市

湖東……彦根市、近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町

湖北……長浜市、米原市

湖西……高島市

- 令和4年3月に中学校等を卒業する予定の生徒数は13,976人（前年同期比（以下同）+541人）。
- 高等学校等への進学志望者は13,886人（+529人）で、その志望率は99.4%（±0ポイント）。
- 専修学校（高等課程）への入学志望者は5人（△2人）で、卒業予定者のうち0.0%（△0.1ポイント）。
- 専修学校（一般課程）等への入学志望者は5人（△1人）で、卒業予定者のうち0.0%（±0ポイント）。
- 公共職業能力開発施設等への入学志望者は2人（+1人）で、卒業予定者のうち0.0%（±0ポイント）。
- 就職志望者は22人（+1人）で、卒業予定者のうち0.2%（±0ポイント）。
- その他の進路を志望する者は55人（+13人）で、卒業予定者のうち0.4%（+0.1ポイント）。
- 不詳等の者は1人（±0人）で、卒業予定者のうち0.0%（±0ポイント）。

高等学校等進学 志望率推移(%)	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
	99.1	99.1	99.2	99.2	99.3	99.3	99.3	99.4	99.4	99.4

【2表】 進学志望者の学校種類別内訳

校 種	男		女		計		(参考)前年度		増 減 A-B			
	人	%	人	%	A 人	%	B 人	%	人	%		
県内	全日制	県立	5,309	73.2	4,947	74.5	10,256	73.9	9,913	74.2	343	△ 0.3
		私立	977	13.5	830	12.5	1,807	13.0	1,789	13.4	18	△ 0.4
	定時制	県立	71	1.0	69	1.0	140	1.0	119	0.9	21	0.1
		私立	17	0.2	49	0.7	66	0.5	86	0.6	△ 20	△ 0.1
	通信制	県立	35	0.5	42	0.6	77	0.6	40	0.3	37	0.3
		私立	42	0.6	59	0.9	101	0.7	81	0.6	20	0.1
	特別支援学校		266	3.7	129	1.9	395	2.8	317	2.4	78	0.4
計		6,717	92.6	6,125	92.3	12,842	92.5	12,345	92.4	497	0.1	
県外	全日制	国立	3	0.0	3	0.0	6	0.0	10	0.1	△ 4	△ 0.1
		公立	40	0.6	35	0.5	75	0.5	65	0.5	10	0.0
		私立	308	4.2	297	4.5	605	4.4	623	4.7	△ 18	△ 0.3
	定時制		2	0.0	0	0.0	2	0.0	3	0.0	△ 1	0.0
	通信制		119	1.6	150	2.3	269	1.9	234	1.8	35	0.1
	高等専門学校		61	0.8	26	0.4	87	0.6	76	0.6	11	0.0
	特別支援学校		0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	△ 1	0.0
計		533	7.4	511	7.7	1,044	7.5	1,012	7.6	32	△ 0.1	
進学志望者 総数		7,250	100.0	6,636	100.0	13,886	100.0	13,357	100.0	529	0.0	
全日制高校 計		6,637	91.5	6,112	92.1	12,749	91.8	12,400	92.8	349	△ 1.0	
定時制高校 計		90	1.2	118	1.8	208	1.5	208	1.6	0	△ 0.1	
通信制高校 計		196	2.7	251	3.8	447	3.2	355	2.7	92	0.5	
高等専門学校 計		61	0.8	26	0.4	87	0.6	76	0.6	11	0.0	
特別支援学校 計		266	3.7	129	1.9	395	2.8	318	2.4	77	0.4	

○ 県内の高等学校等への進学志望者は12,842人（前年同期比（以下同）+497人）で、全進学志望者のうちの92.5%（+0.1ポイント）である。うち、県立全日制高校志望者は10,256人（+343人）で73.9%（△0.3ポイント）、県内私立全日制高校志望者は1,807人（+18人）で13.0%（△0.4ポイント）等となっている。

○ 県外の高等学校等への進学志望者は1,044人（+32人）で、全進学志望者の7.5%（△0.1ポイント）である。うち県外私立全日制高校志望者は605人（△18人）で4.4%（△0.3ポイント）等となっている。

【3表】 県立全日制高校志望者の学科別内訳

(人)

中学校等所在地	普通	専 門 学 科										総合	合計	
		農業	工業	商業	家庭	理数	音楽	美術	体育	文理探究	計			
大津地域	1,645	61	118	210	61	34	6	21	9	2	522	36	2,203	
湖南地域	1,953	120	133	101	44	22	12	20	14	0	466	209	2,628	
甲賀地域	787	7	34	15	1	1	2	16	9	0	85	221	1,093	
湖東地域	1,608	138	341	204	4	30	4	12	14	0	747	455	2,810	
湖北地域	800	106	38	7	1	14	1	1	0	1	169	252	1,221	
湖西地域	187	2	1	2	0	1	0	0	1	30	37	77	301	
志望者数A	6,980	434	665	539	111	102	25	70	47	33	2,026	1,250	10,256	
募集定員B	6,480	400	720	520	80	80	40	40	40	40	1,960	1,240	9,680	
志望倍率A/B	1.08	1.09	0.92	1.04	1.39	1.28	0.63	1.75	1.18	0.83	1.03	1.01	1.06	
前年度	志望者数a	6,883	376	623	474	116	87	26	48	46	30	1,826	1,204	9,913
	募集定員b	6,160	400	720	480	80	80	40	40	40	40	1,920	1,240	9,320
志望倍率a/b	1.12	0.94	0.87	0.99	1.45	1.09	0.65	1.20	1.15	0.75	0.95	0.97	1.06	
増減 A-a	97	58	42	65	△ 5	15	△ 1	22	1	3	200	46	343	

(%)

学科別構成比	H26年	68.5	4.2	7.0	5.3	1.6	0.9	0.3	0.4	0.5	—	20.4	11.1	100.0
	H27年	69.7	4.5	6.5	4.8	1.0	0.8	0.3	0.4	0.5	—	18.9	11.3	100.0
	H28年	69.9	4.3	6.3	4.9	0.8	0.9	0.3	0.4	0.4	—	18.2	11.9	100.0
	H29年	69.4	4.3	6.2	5.1	1.1	0.7	0.3	0.4	0.5	—	18.6	12.0	100.0
	H30年	69.6	3.6	6.6	5.5	1.0	1.0	0.2	0.3	0.4	—	18.4	12.0	100.0
	R1年	68.5	4.2	6.2	5.1	1.0	0.9	0.2	0.3	0.4	—	18.3	13.2	100.0
	R2年a	69.4	3.8	6.3	4.8	1.2	0.9	0.3	0.5	0.5	0.3	18.4	12.1	100.0
	R3年b	68.1	4.2	6.5	5.3	1.1	1.0	0.2	0.7	0.5	0.3	19.8	12.2	100.0
	増減 b-a	△ 1.3	0.4	0.2	0.5	△ 0.1	0.1	△ 0.1	0.2	0.0	0.0	1.4	0.1	—

○ 県立全日制高等学校への進学志望者を学科別にみると、普通科6,980人（前年同期比（以下同）+97人）、総合学科1,250人（+46人）、工業学科665人（+42人）、商業学科539人（+65人）、農業学科434人（+58人）等となっている。

学校・学科別志望状況

令和4年3月卒業予定者  
第2次志望調査(1月実施)

学校名	学科名	科名	募集定員 A ※1	志望者数 ※2			志望倍率 B/A	前年同期 志望倍率	前年度確定 出願倍率※3
				男	女	計B			
1 県立高校全日制			9,440	5,210	4,815	10,025	1.06	1.07	1.10
膳所	普通		320	254	255	509	1.59	1.66	1.63
	理数	理数	40	46	16	62	1.55	1.20	
	計		360	300	271	571	1.59	1.61	
堅田	普通		240	107	90	197	0.82	0.91	0.94
東大津	普通		360	184	169	353	0.98	0.94	1.14
北大津	普通		120	66	34	100	0.83	0.77	0.80
大津	普通		240	178	234	412	1.72	1.83	1.69
	家庭	家庭科学	80	1	110	111	1.39	1.45	1.54
	計		320	179	344	523	1.63	1.73	1.66
石山	普通		320	283	245	528	1.65	1.38	1.31
	音楽	音楽	40	4	21	25	0.63	0.65	0.35
	計		360	287	266	553	1.54	1.30	1.23
瀬田工業	工業	機械	120	101	0	101	0.84	0.80	0.53
		電気	120	112	1	113	0.94	0.82	0.83
		化学工業	40	19	4	23	0.58	1.00	0.68
	計		280	232	5	237	0.85	0.84	0.68
大津商業	商業	総合ビジネス	200	51	166	217	1.09	0.92	1.05
		情報システム	80	47	35	82	1.03	1.58	1.25
	計		280	98	201	299	1.07	1.03	1.08
草津東	普通		320	284	275	559	1.75	1.54	1.37
	体育	体育	40	27	20	47	1.18	1.15	
	計		360	311	295	606	1.68	1.50	
草津	普通		240	119	132	251	1.05	1.30	1.29
玉川	普通		320	152	136	288	0.90	1.01	1.40
守山	普通		200	122	150	272	1.36	1.16	1.19
守山北	普通		200	67	48	115	0.58	0.94	0.89
栗東	普通		160	75	52	127	0.79	0.89	1.06
	美術	美術	40	12	58	70	1.75	1.20	
	計		200	87	110	197	0.99	0.97	
野洲	普通		160	47	54	101	0.63	0.86	0.96
湖南農業	農業	農業	80	65	34	99	1.24	0.68	0.85
		食品	40	22	33	55	1.38	1.48	1.35
		花緑	40	20	22	42	1.05	0.80	0.81
	計		160	107	89	196	1.23	0.91	0.95
国際情報	総合		240	122	162	284	1.18	0.98	0.96
水口	普通		200	127	108	235	1.18	1.03	1.03
水口東	普通		120	68	46	114	0.95	1.07	1.02
石部	普通		120	58	54	112	0.93	0.96	1.00
甲西	普通		240	92	114	206	0.86	0.95	1.10
甲南	総合		120	63	45	108	0.90	0.78	0.90
信楽	総合		80	26	11	37	0.46	0.78	0.78

学校・学科別志望状況

令和4年3月卒業予定者  
第2次志望調査(1月実施)

学校名	学科名	科名	募集定員 A ※1	志望者数 ※2			志望倍率 B/A	前年同期 志望倍率	前年度確定 出願倍率※3
				男	女	計B			
彦根東		普通	320	181	150	331	1.03	1.21	1.17
河瀬		普通	120	65	49	114	0.95	0.84	1.19
八幡		普通	320	112	162	274	0.86	1.07	1.13
八日市		普通	280	161	160	321	1.15	1.14	1.17
能登川		普通	120	40	75	115	0.96	0.98	1.08
愛知		普通	120	37	41	78	0.65	0.78	0.87
八日市南	農業	農業	40	31	19	50	1.25	0.95	1.19
		食品	40	11	21	32	0.80	0.88	0.67
		花緑デザイン	40	22	16	38	0.95	0.68	0.58
		計	120	64	56	120	1.00	0.83	0.78
彦根工業	工業	機械	120	95	10	105	0.88	0.83	1.01
		電気	80	80	4	84	1.05	1.16	1.10
		建設	40	27	12	39	0.98	0.83	1.14
		計	240	202	26	228	0.95	0.94	1.06
八幡工業	工業	機械	80	85	3	88	1.10	0.86	0.96
		電気	80	84	2	86	1.08	0.75	0.83
		環境化学	40	21	5	26	0.65	0.88	0.85
		計	200	190	10	200	1.00	0.82	0.88
八幡商業	商業	商業	160	71	99	170	1.06	0.92	0.87
		国際経済	40	10	12	22	0.55	0.70	0.76
		情報処理	40	27	21	48	1.20	1.30	1.14
		計	240	108	132	240	1.00	0.95	0.89
彦根翔西館		総合	320	179	208	387	1.21	1.19	1.10
日野		総合	160	55	71	126	0.79	0.81	0.90
長浜北		普通	280	123	135	258	0.92	1.10	1.05
虎姫		普通	200	105	96	201	1.01	0.96	0.97
伊香		普通	120	62	35	97	0.81	0.49	0.42
伊吹		普通	120	72	47	119	0.99	0.91	1.04
米原	普通		200	100	104	204	1.02	1.19	
	理数	理数	40	27	13	40	1.00	0.98	
	計		240	127	117	244	1.02	1.15	1.11
長浜農業	農業	農業	40	24	12	36	0.90	1.08	1.23
		食品	40	6	35	41	1.03	1.18	1.15
		園芸	40	18	23	41	1.03	1.03	1.30
		計	120	48	70	118	0.98	1.09	1.23
長浜北星		総合	200	101	120	221	1.11	1.04	1.07
高島	普通		160	79	79	158	0.99	1.05	
	文理探究	文理探究	40	23	10	33	0.83	0.75	
	計		200	102	89	191	0.96	0.99	1.00
安曇川		総合	120	55	32	87	0.73	0.79	0.89

学校・学科別志望状況

令和4年3月卒業予定者  
第2次志望調査(1月実施)

学校名	学科名	科名	募集定員 A ※1	志 望 者 数 ※2			志望倍率 B/A	前年同期 志望倍率	前年度確定 出願倍率※3
				男	女	計B			
2 私立高校全日制			2,695	896	738	1,634	0.61	0.61	3.83
比叡山	普通		400	164	76	240	0.60	0.54	2.98
滋賀短大附属	普通		250	59	104	163	0.65	0.60	5.02
	生活デザイン		-	-	-	-	-	0.41	1.71
	計		250	59	104	163	0.65	0.55	4.08
近 江	普通		240	91	74	165	0.69	0.60	6.33
	商業		160	4	4	8	0.05	0.06	0.39
	計		400	95	78	173	0.43	0.39	3.95
近江兄弟社	普通		320	121	148	269	0.84	0.85	4.27
	国際コミュニケーション		70	10	42	52	0.74	0.66	0.66
	計		390	131	190	321	0.82	0.82	3.62
滋賀学園	普通		240	56	39	95	0.40	0.44	3.53
光泉カトリック	普通		350	85	41	126	0.36	0.44	5.81
彦根総合	総合		210	104	58	162	0.77	0.94	3.23
	フードクリエイト		35	27	17	44	1.26	1.17	1.23
	計		245	131	75	206	0.84	0.97	2.94
立命館守山	普通		160	79	69	148	0.93	0.86	3.36
綾 羽	普通		160	69	39	108	0.68	1.01	8.60
	福祉		-	-	-	-	-	0.48	1.65
	計		160	69	39	108	0.68	0.83	6.28
幸福の科学学園関西	普通		100	27	27	54	0.54	0.52	0.67
3 県立高校定時制			280	71	69	140	0.50	0.43	0.47
大津清陵	普通		40	15	15	30	0.75	0.48	0.58
大津清陵馬場分校	普通		40	14	9	23	0.58	0.58	0.75
瀬田工業	工業	機械・電気	40	12	1	13	0.33	0.28	0.33
彦根工業	工業	機 械	40	6	2	8	0.20	0.23	0.25
長浜北星	総合		40	4	6	10	0.25	0.28	0.25
能 登 川	普通	[昼 間]	40	15	27	42	1.05	1.00	1.06
		[夜 間]	40	5	9	14	0.35	0.15	0.23
	計		80	20	36	56	0.70	0.58	0.60
4 私立高校定時制			80	17	49	66	0.83	0.54	1.96
綾 羽	定時制	普通	40	8	36	44	1.10	0.53	2.03
		食物調理	40	9	13	22	0.55	0.55	1.78
	計		80	17	49	66	0.83	0.54	1.96
5 県立高校通信制			320	35	42	77	0.24	0.13	0.40
大津清陵	普通		320	35	42	77	0.24	0.13	0.40
6 私立高校通信制			425	42	59	101	0.24	0.19	0.42
綾 羽	通信制	普通	105	18	20	38	0.36	0.33	0.36
司学館	通信制	普通	120	22	31	53	0.44	0.32	0.73
ECC学園	通信制	総合	200	2	8	10	0.05	0.04	0.26

※1 募集定員は、入学者選抜の対象となる定員のみ記載しており、中高一貫教育校の併設中学校から併設高校への進学者にかかる定員は除いています。

中高一貫教育校 県立守山中学校・高等学校 県立水口東中学校・高等学校 県立河瀬中学校・高等学校  
滋賀学園中学校・高等学校 立命館守山中学校・高等学校

※2 志望者数とは、県内の中学校、義務教育学校および特別支援学校中学部を卒業する予定で、県内の高等学校を志望する生徒（一般選抜・推薦選抜・特色選抜を問わない。中高一貫併設高校への内部進学者は除く。）の数のことであり、過年度卒業生や県外からの志望者は含まれていません。

※3 県立学校の前年度確定出願倍率は、一般選抜学力検査の確定出願倍率であり、推薦選抜および特色選抜の出願状況は反映していません。

※4 膳所高校、草津東高校、栗東高校、米原高校、高島高校の5校は、学校出願（普通科と専門学科を区別しない出願）実施校であり、前年度の出願倍率は学校全体の表示としています。

※5 大津清陵高校定時制昼間部の募集定員・志望者数には、転・編入学者定員・志望者数を含みません。

## I 中学校卒業者の進路状況

対象……中学校103校  
(国立1、公立96、私立6)

【1表】 年度別卒業者の内訳

(上段 人、下段 %)

卒業 年月	卒業者 総数 (A～F)	高等学校 等進学者 *	専修学校 (高等課程) 進学者	専修学校 (一般課程) 等入学者	公共職業 能力開発 施設等 入学者**	就職者 ***	その他	A～D のうち 就職者 (再掲)	高校等進学率	
									県	全国
H27.3	14,411 100.0	14,251 98.9	10 0.1	7 0.0	9 0.1	24 0.2	110 0.8	3 0.0	98.9	98.5
H28.3	14,310 100.0	14,163 99.0	3 0.0	3 0.0	6 0.0	37 0.3	98 0.7	1 0.0	99.0	98.7
H29.3	14,500 100.0	14,370 99.1	5 0.0	5 0.0	6 0.0	26 0.2	88 0.6	1 0.0	99.1	98.8
H30.3	14,299 100.0	14,168 99.1	8 0.1	3 0.0	9 0.1	21 0.1	90 0.6	6 0.0	99.1	98.8
H31.3	13,978 100.0	13,873 99.2	9 0.1	1 0.0	2 0.0	27 0.2	66 0.5	0 0.0	99.2	98.8
R2.3	13,732 100.0	13,612 99.1	6 0.0	0 0.0	2 0.0	11 0.1	101 0.7	1 0.0	99.1	98.8
R3.3	13,242 100.0	13,137 99.2	10 0.1	7 0.1	0 0.0	12 0.1	76 0.6	0 0.0	99.2	
男子	6,850 100.0	6,795 99.2	1 0.0	2 0.0	0 0.0	10 0.1	42 0.6	0 0.0	99.2	
女子	6,392 100.0	6,342 99.2	9 0.1	5 0.1	0 0.0	2 0.0	34 0.5	0 0.0	99.2	

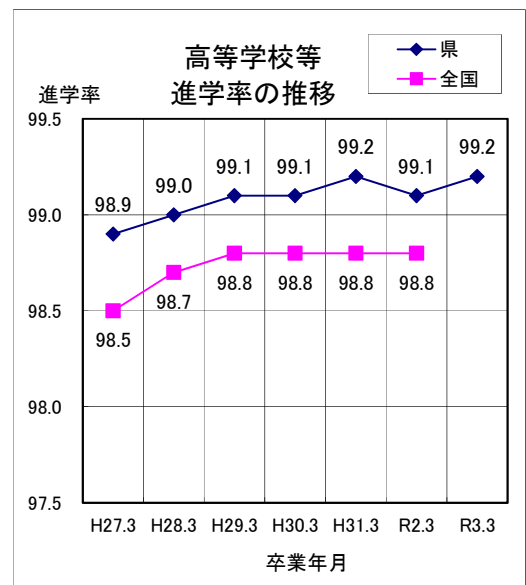
\* 高等学校等とは、高等学校、特別支援学校(高等部)、高等専門学校です。

\*\* 公共職業能力開発施設等とは、職業訓練を行うために設置された施設です。

\*\*\* 就職者とは、自営業主等、無期雇用労働者、有期雇用労働者のうち雇用契約期間が1年以上かつフルタイム勤務相当の者をいいます。

- 高等学校等進学率は99.2%で、前年度より0.1ポイント上昇
- 卒業者に占める就職者の割合は0.1%で、前年度と同じである

- 1 令和3年3月の卒業生総数は13,242人で、前年度より490人減少している。
- 2 高等学校等進学者は13,137人、進学率は99.2%で、前年度より0.1ポイントの上昇となっている。
- 3 専修学校(高等課程)進学者は10人である。
- 4 就職者は12人で、卒業生総数の0.1%となっている。



- 5 その他は76人で、卒業生総数の0.6%となっている。主な内訳は、家事手伝いが29人、不登校等による進路未定が11人、求職中が8人などである。

## Ⅱ 義務教育学校卒業者の進路状況

対象……義務教育学校2校  
(公立2)

【1表】 年度別卒業者の内訳

(上段 人、下段 %)

卒業 年月	卒業者 総数 (A～F)	高等学校 等進学者 *	専修学校 (高等課程) 進学者	専修学校 (一般課程) 等入学者	公共職業 能力開発 施設等 入学者**	就職者 ***	その他	A～D のうち 就職者 (再掲)	高校等進学率	
									県	全国
H31. 3	29	29	0	0	0	0	0	0	100.0	98.8
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
R2. 3	21	21	0	0	0	0	0	0	100.0	98.5
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
R3. 3	55	54	0	1	0	0	0	0	98.2	
	100.0	98.2	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0		
男子	28	28	0	0	0	0	0	0	100.0	
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
女子	27	26	0	1	0	0	0	0	96.3	
	100.0	96.3	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0		

\* 高等学校等とは、高等学校、特別支援学校(高等部)、高等専門学校です。  
 \*\* 公共職業能力開発施設等とは、職業訓練を行うために設置された施設です。  
 \*\*\* 就職者とは、自営業主等、無期雇用労働者、有期雇用労働者のうち雇用契約期間が1年以上かつフルタイム勤務相当の者をいいます。

### ○ 高等学校等進学率は98.2%

- 令和3年3月の卒業者総数は55人で、前年度より34人増加している。  
なお、調査対象校は前年度より1校増加している。
- 高等学校等進学者は54人で、進学率は98.2%となっている。

### Ⅲ 中学校および義務教育学校卒業者の高等学校等進学者の進路状況

【1表】 高等学校等進学者の学校種類別内訳

校 種			男		女		計		(参考)前年度		増減
			人	%	人	%	A 人	%	B 人	%	A-B
進 学 者 総 数			6,823	100.0	6,368	100.0	13,191	100.0	13,633	100.0	△ 442
県 内	全日制	県 立	4,599	67.4	4,476	70.3	9,075	68.8	9,486	69.6	△ 411
		私 立	1,344	19.7	1,073	16.8	2,417	18.3	2,416	17.7	1
	定時制	県 立	59	0.9	63	1.0	122	0.9	157	1.2	△ 35
		私 立	28	0.4	60	0.9	88	0.7	106	0.8	△ 18
	通信制	県 立	22	0.3	21	0.3	43	0.3	59	0.4	△ 16
		私 立	45	0.7	49	0.8	94	0.7	89	0.7	5
	特別支援学校		115	1.7	67	1.1	182	1.4	150	1.1	32
	計		6,212	91.0	5,809	91.2	12,021	91.1	12,463	91.4	△ 442
県 外	全日制	国 立	3	0.0	3	0.0	6	0.0	2	0.0	4
		公 立	30	0.4	29	0.5	59	0.4	63	0.5	△ 4
		私 立	383	5.6	383	6.0	766	5.8	812	6.0	△ 46
	定 時 制		4	0.1	1	0.0	5	0.0	2	0.0	3
	通 信 制		129	1.9	130	2.0	259	2.0	229	1.7	30
	高等専門学校		61	0.9	13	0.2	74	0.6	61	0.4	13
	特別支援学校		1	0.0	0	0.0	1	0.0	1	0.0	0
	計		611	9.0	559	8.8	1,170	8.9	1,170	8.6	0
全日制高校 計			6,359	93.2	5,964	93.7	12,323	93.4	12,779	93.7	△ 456
定時制高校 計			91	1.3	124	1.9	215	1.6	265	1.9	△ 50
通信制高校 計			196	2.9	200	3.1	396	3.0	377	2.8	19
高等専門学校 計			61	0.9	13	0.2	74	0.6	61	0.4	13
特別支援学校 計			116	1.7	67	1.1	183	1.4	151	1.1	32

学校種類別内訳は、全日制高等学校が12,323人（構成比93.4%）、定時制高等学校が215人（1.6%）、通信制高等学校が396人（3.0%）、高等専門学校が74人（0.6%）、特別支援学校が183人（1.4%）である。

県内と県外の別では、県内進学者は12,021人（91.1%）であり、前年度より442人減少している。県外進学者は1,170人（8.9%）である。県外私立全日制高等学校進学者の進学先地域は、京都府が最も多く617人、次いで大阪府26人、福井県15人、岐阜県9人、島根県9人、三重県8人、兵庫県7人、福岡県7人の順となっている。

【2表】 県内の全日制、定時制高等学校進学者の学科別内訳

		合計	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	音楽	美術	体育	文理探究	福祉	国際	食物	総合
全 日 制	県立	9,075	6,035	383	673	479	80	80	27	40	40	40	—	—	—	1,198
	私立	2,417	2,032	—	—	14	47	—	—	—	—	—	24	43	32	225
	計	11,492	8,067	383	673	493	127	80	27	40	40	40	24	43	32	1,423
定 時 制	県立	122	90	—	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11
	私立	88	69	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19	—
	計	210	159	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	11
合 計		11,702	8,226	383	694	493	127	80	27	40	40	40	24	43	51	1,434
%		100.0	70.3	3.3	5.9	4.2	1.1	0.7	0.2	0.3	0.3	0.3	0.2	0.4	0.4	12.3
(参考) 前年度	人 数	12,165	8,653	395	725	534	121	79	15	31	39	—	20	63	64	1,426
	%	100.0	71.1	3.2	6.0	4.4	1.0	0.6	0.1	0.3	0.3	—	0.2	0.5	0.5	11.7

県内の全日制、定時制高等学校進学者の学科別内訳は、普通科が8,226人（構成比70.3%）、総合学科が1,434人（12.3%）、工業学科が694人（5.9%）、商業学科が493人（4.2%）、農業学科が383人（3.3%）などとなっている。



# 中学校および義務教育学校卒業（予定）者数の推移（県全体）

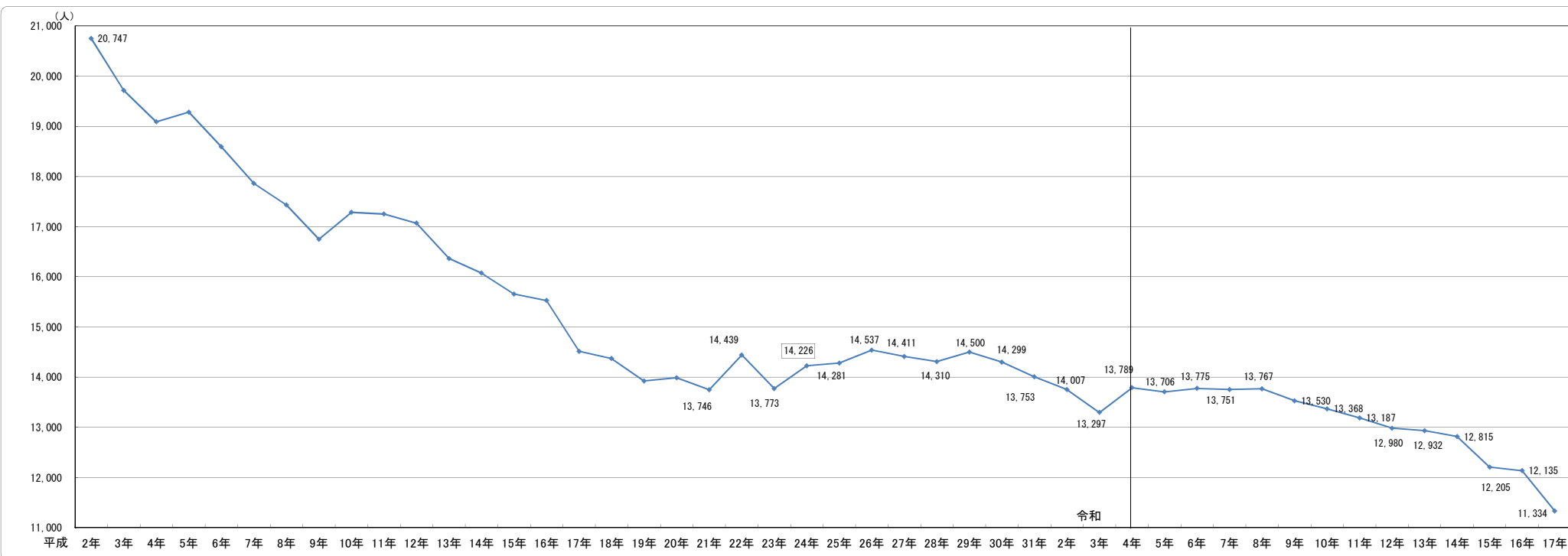
2021年9月版

資料2-6

平成	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	令和	2年	3年
全県計	20,747	19,715	19,088	19,279	18,592	17,859	17,432	16,750	17,283	17,251	17,068	16,361	16,073	15,655	15,526	14,515	14,370	13,922	13,988	13,746	14,439	13,773	14,226	14,281	14,537	14,411	14,310	14,500	14,299	14,007	13,753	13,297	

※H31から義務教育学校を含む

令和	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
全県計	13,789	13,706	13,775	13,751	13,767	13,530	13,368	13,187	12,980	12,932	12,815	12,205	12,135	11,334
	492	409	478	454	470	233	71	▲ 110	▲ 317	▲ 365	▲ 482	▲ 1092	▲ 1162	▲ 1963



※ 令和3年～令和12年は、令和3年5月1日の学校基本調査による現員  
 ※ 令和13年以降は、令和3年4月1日付けの県人口推計(統計課)による

# 中学校および義務教育学校卒業（予定）者数の推移（地域別）

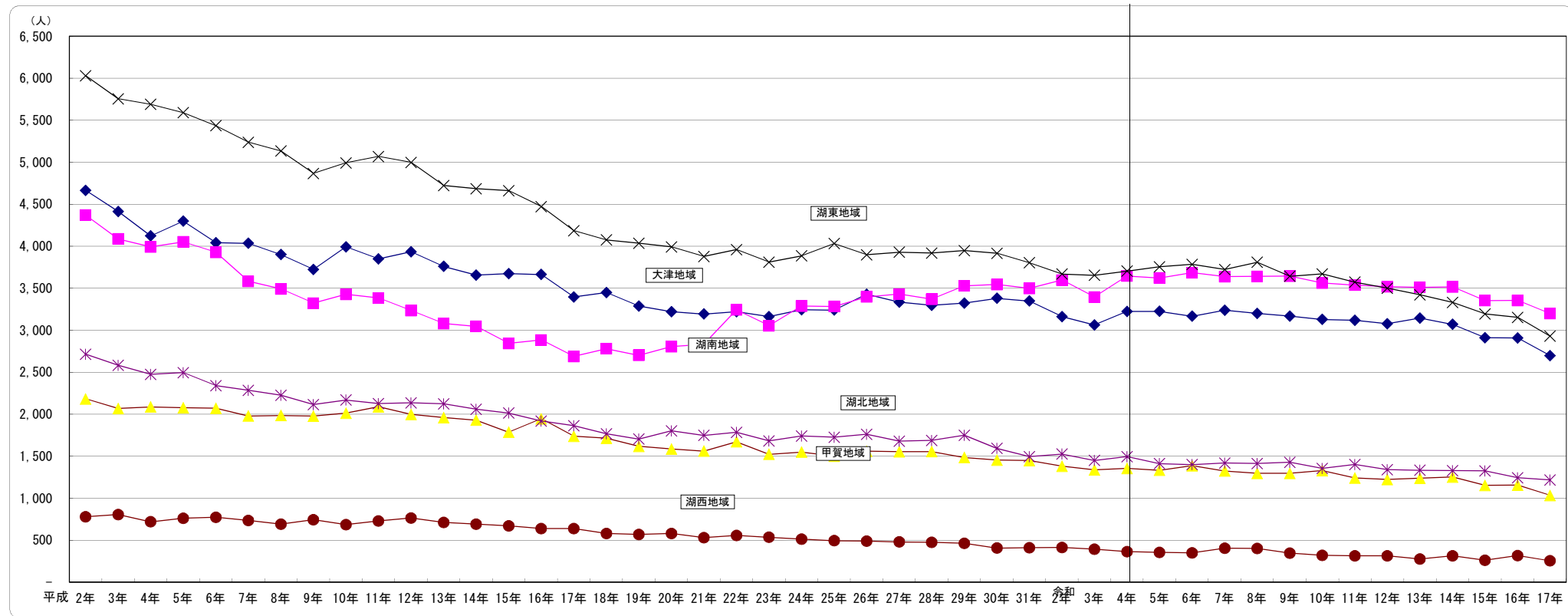
2021年9月版

※H31から義務教育学校を含む

	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
大津	4,666	4,414	4,123	4,298	4,042	4,035	3,901	3,723	3,993	3,849	3,935	3,760	3,657	3,675	3,664	3,397	3,448	3,289	3,222	3,193	3,220	3,163	3,245	3,240	3,428	3,335	3,298	3,323	3,380	3,348	3,162	3,062	3,223	3,225	3,167	3,238	3,200	3,169	3,129	3,118	3,078	3,146	3,070	2,912	2,909	2,698
湖南	4,371	4,088	3,992	4,053	3,928	3,584	3,492	3,323	3,428	3,385	3,235	3,080	3,047	2,843	2,885	2,689	2,781	2,702	2,805	2,832	3,243	3,054	3,289	3,284	3,398	3,431	3,371	3,529	3,546	3,499	3,599	3,396	3,646	3,623	3,685	3,639	3,642	3,645	3,562	3,538	3,519	3,512	3,516	3,354	3,355	3,199
甲賀	2,184	2,068	2,088	2,078	2,072	1,980	1,986	1,979	2,013	2,089	1,998	1,962	1,930	1,787	1,946	1,739	1,715	1,620	1,586	1,562	1,673	1,524	1,550	1,502	1,560	1,554	1,556	1,486	1,456	1,449	1,381	1,339	1,356	1,334	1,387	1,325	1,298	1,297	1,329	1,241	1,225	1,239	1,253	1,154	1,156	1,035
湖東	6,031	5,756	5,690	5,590	5,435	5,239	5,134	4,866	4,993	5,069	4,999	4,723	4,686	4,663	4,473	4,186	4,076	4,037	3,992	3,878	3,960	3,812	3,886	4,032	3,899	3,930	3,920	3,948	3,916	3,804	3,670	3,655	3,705	3,756	3,786	3,723	3,810	3,643	3,671	3,573	3,501	3,423	3,332	3,195	3,154	2,930
湖北	2,714	2,583	2,475	2,497	2,341	2,285	2,228	2,115	2,170	2,128	2,136	2,124	2,060	2,015	1,919	1,864	1,768	1,705	1,803	1,749	1,786	1,684	1,742	1,728	1,761	1,681	1,689	1,751	1,594	1,496	1,527	1,451	1,495	1,413	1,401	1,421	1,415	1,429	1,355	1,403	1,342	1,334	1,330	1,327	1,244	1,217
湖西	781	806	720	763	774	736	691	744	686	731	765	712	693	672	639	640	582	569	580	532	557	536	514	495	491	480	476	463	407	411	414	394	364	355	349	405	402	347	322	314	315	278	314	263	317	255
計	20,747	19,715	19,088	19,279	18,592	17,859	17,432	16,750	17,283	17,251	17,068	16,361	16,073	15,655	15,526	14,515	14,370	13,922	13,988	13,746	14,439	13,773	14,226	14,281	14,537	14,411	14,310	14,500	14,299	14,007	13,753	13,297	13,789	13,706	13,775	13,751	13,767	13,530	13,368	13,187	12,980	12,932	12,815	12,205	12,135	11,334

平成24年3月卒業生との比較(人) → 100 100.4 102.2 101.3 100.6 101.9 100.5 98.5 96.7 93.5 96.9 96.3 96.8 96.7 96.8 95.1 94.0 92.7 91.2 90.9 90.1 85.8 85.3 79.7

※ 令和4年～令和12年は、令和3年5月1日の学校基本調査による現員  
 ※ 令和13年以降は、令和3年4月1日付けの県人口推計(統計課)による  
 ※ 旧志賀町は合併前の数値についても比較のため、大津地域として算定



背景 ○人口減少、少子高齢化、グローバル化、情報化、技術革新の進展などの急速な社会情勢の変化への対応
策定趣旨 ○概ね10から15年先を見据えて、新しい時代を切り拓く人づくりのため、県立高等学校の在り方について、全県的視野で基本的な考え方を示す
対象期間 ○令和4年度から令和13年度の10年間



これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本的な考え方

本県教育の教育理念 未来を拓く心豊かでたくましい人づくり
育成すべき生徒像 生きる力（自立する力・伝える力・協働する力・創造する力等）がある
高等学校の役割 生きる力を育む場、好奇心や探究心を更に発展させる場、好意や探究心をもって「課題を見つけて解決に向けて考え行動する」教育の場へ
魅力化の視点 ◎多様性のある社会や人口減少社会への対応等を、小・中・高・大・社会の連続性の中で捉え、ICTを活用し、持続可能な形で実施する
◎森・川・里・湖が水系でつながり、近江の心が根付いた「滋賀」ならではの学び、それぞれの県立高校でその学びを地域とともに推進する

これまでの主な県立高等学校改革

- H18 県立普通科高校通学区全域一区制
H24 県立高校再編計画策定

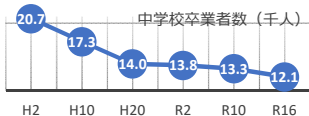
現行再編計画の総括

- 統合新校設置（長浜北・彦根翔西館）
・学校統合により地域全体の学校活力向上
・社会性の涵養、部活動の活性化
○総合単位制高校設置、職業系専門学科改編等
・不登校傾向が改善し卒業
○全県一区制度のもと、国や県の指定事業等の活用や地域、大学等との連携による魅力ある学校づくりの人口の進展
○普通科高校や人口減少地域の学校の更なる魅力化、発信力の強化が必要
○計画策定過程で地域との双方向の議論が必要

県立高等学校を取り巻く現状と課題

◆生徒数の減少

- ・H2.3卒のピークから▲7,000人34%減
・R16.3卒は更に▲1,700人 H2.3卒から42%減



◆社会情勢の変化

- ・人口減少と少子高齢化
・グローバル化の進展
・第4次産業革命とSociety5.0
・新型コロナウイルス感染症の拡大

◆国の動き

- ・学習指導要領改訂：社会に開かれた教育課程、主体的・対話的で深い学び
・新時代に対応した高等学校教育の在り方普通科改革等

◆特別な教育的支援が必要な生徒の増加

- ・中学校の特別支援学級から高校へ進学する生徒増加（H20(13%)→H30(54%))
・高校で特別な教育的支援が必要な生徒の割合は増加傾向（H22(2%)→R1(5%)）

将来の社会の姿

- ◇人口減少と高齢化の更なる進行
◇第4次産業革命を通じたSociety5.0の実現
◇コロナ禍を経た生活様式の変化
◇大規模災害などの発生リスク
◇持続可能な社会の実現（SDGs）
◇多様な価値観が尊重される社会

想像はできるが予測できないことが起こりうる

高等学校への希望や期待

～アンケートや意見聴取から～

◇生徒の立場から <中高生7,688人回答>

- ・文武両道に励みたい
・将来のことをじっくり考えたい
・校舎をリニューアルしてほしい
・生徒や先生が団結できる行事があるとよい
・インターネットを活用した授業を増やしてほしい等
（県立高校1,2年生）
○在籍している高校の満足度（全日制）満足82%（友人関係、部活動、授業）
不満18%（授業、校風、施設・設備）

◇保護者の立場から <保護者6,894人回答>

- ・子供の可能性を上げてやりたい
・基礎から学べるようにしてほしい
・学力向上だけでなく、人間性を高めてほしい
・オンライン授業等に力を入れてほしい等

<中学1,2年生保護者>

- 子供に進学させたい高校 県立高校88% 県内私立高校4%
○高校に期待すること 自分の進路希望や興味・関心等に応じた科目選択ができる63%

◇地域社会の視点

- ・地域活性化に貢献する生徒を育ててほしい
・地域にとって高校の存在は大きい
・在り方検討で高校再編とせず、地域の声を聴いてほしい等

◇産業界の視点

- ・専門的に教育して、高校卒業してすぐに社会に役立つ人材を育ててほしい
・企業等と連携することが必要等

◇教職員の立場から

- ・人間性を高めるため、授業はもちろん、部活動や学校行事も大切に、いろいろな経験ができる教育活動を工夫したい
・一定の規模で教員数も充実した状況が必要等

◇卒業後の進学先の視点

- ・ディスカッションをする際に、根拠のある意見を述べる力の育成が必要
・大学に進学を希望する際、自身の関心や志向を見つめおして学問と接続していくことが必要
・職業系専門学科では現場体験など実体験の機会を増やし、職業へのあこがれを育むことが重要等

◇その他学校関係者の視点

- ・対人不安の強い生徒たちが同じ教室で学ぶことの難しさが、先生方が様々なスキルを身に付けられるよう支援が必要
・中学生にとって高校に触れるという体験は大きく、オープンスクールのように直接情報を届けることが大事等

目指す姿 ■高等学校別 ◆県域全体

- ①生徒が自ら主体的に学び「生きる力」をつけることができる
→全全ての生徒に自分を高める学びが提供されている
→多様な人との出会いやコミュニケーションを通じて深い発見できる学びが提供されている
②生徒が多様性を尊重し世界につながり活躍するための力をつけることができる
→グローバル人材や科学技術人材が育成されている
→大学等と連携した高度な専門的学びが提供されている
→ICTを活用した対話的・協働的な学びが実現できている
③生徒同士が切磋琢磨し成長できる
→学校行事や生徒会活動、部活動が活性化している
→学校でこそ育まれる人と人とのつながりを意識した場が提供されている
④場所や時間を選ばない学びができる
→ICTや外部人材を活用し、所属する学校の枠にとらわれない柔軟で多様な学びが提供されている
⑤生徒が社会から学び自らの進路を考えることができる
→地域の教育資源や人々と関わる学びが提供されている
→産業界と連携した学びが提供されている
⑥障害のある者となない者が互いに学び合い互いを尊重できる
→共生社会の実現に向けた教育が着実に進んでいる
⑦生徒が自らに合った学びを選択できる
→それぞれの県立高校ならではの魅力や特色が人々に理解されている
→基礎学力充実、不登校、日本語学習等に対応する学びが提供されている
→県内どの地域でも様々な学びが提供されている
→経済的に不利な環境にある生徒への支援が充実している
→男女の人権や性の多様性が尊重される学校づくりが進んでいる
⑧教職員が生徒一人ひとりに愛情をもって向き合いサポートできている
→授業改善が進むとともに教職員自身の人間性や創造性を高め効果的な教育活動ができている

滋賀の県立高等学校づくりのコンセプト

多様な生徒一人ひとりが、「滋賀」という地域から学び、社会の一員としての自立を目指す学校づくりを進める

1 「滋賀」に学ぶ 2 「滋賀」で学ぶ
滋賀の自然、歴史、文化、人、産業等を教育資源とした学びの充実
◎知識・技能を活用し課題を解決する確かな学力の育成
◎自立した社会人を育てるキャリア教育の充実
◎生徒の学びが意欲を育むための多様な学習ニーズ等への対応
1と2を支える環境整備
◎多様な学びの提供や人とのつながりの創出等、生徒数減少への対応
◎多様な学びを実現するICTを活用した教育の提供
◎生徒の学びを支援し、自ら学び続ける教職員の育成
◎持続可能な推進体制の構築
魅力と活力ある取組を明確にし、見える化する学校づくり
◎普通科の特色化(全県一区制度継続)(普通科系専門学科を含む)
◎職業系専門学科等の特色化・高度化
◎定時制/通信制の役割への対応

オンラインの学校づくり ↓ 魅力発信

取組の方向性

- ア 確かな学力の育成
→「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善 [目指す姿①⑧]
→「読み解く力」をもとにした探究的に学ぶ力の育成 [①]
イ キャリア教育の充実
→小中学校と高校、大学等の連続性を踏まえたキャリア教育の推進(タテの連携) [①⑤]
→地元企業などの地域の教育資源を活用したキャリア教育の推進(ヨコの連携) [①⑤]
ウ 多様な学習ニーズ等への対応
→特別な教育的支援を必要とする生徒への指導の充実 [⑥⑦]
→日本語指導が必要な生徒等への支援の充実 [⑦]
→不登校生徒への支援の充実 [⑦]
→基礎学力充実のための取組の工夫 [⑦]
→経済的に不利な環境にある生徒への支援の充実 [⑦]
→男女の人権や性の多様性が尊重される教育の推進 [⑦]
エ 普通科の特色化(普通科系専門学科を含む) [①②③⑤⑦]
→普通科の学科改編やコース、類型の設置 [②]
→グローバル人材、科学技術人材の育成 [⑦]
→普通科系専門学科(音楽・美術等)の学びを継続するための工夫 [⑦]
→高校の特色のPR [⑦]
オ 職業系専門学科・総合学科の特色化・高度化 [①②③⑤]
→Society5.0社会に対応した人材育成 [⑥⑦]
→地域や産業界と連携した産業界教育 [⑥⑦]
→産業界の推進にかかる環境整備 [⑦]
→職業系学科の魅力を伝える方策 [⑦]
カ 定時制/通信制の役割への対応 [③⑦]
→多様な生徒の進路保障等を見据えた学びの場の提供
キ 生徒数減少への対応 [⑥⑦]
→これまで以上に地域と連携・協働した学校づくりの推進 [⑦]
→多様な学びを実現するための少人数制の工夫 [⑥⑦]
→市町のまちづくりと連携した特徴的な学科等の設置や磨き上げ [⑥⑦]
→普通科の学科改編やコース、類型の設置 [①②③⑤⑦]
→学校行事、部活動等の学校間連携や地域連携についての研究 [③]
ク ICTの活用 [①④]
→全ての県立高校でICT環境の充実・更新 [①④]
→ICT活用コンテンツ等の共有化 [①⑧]
→教職員のICTを活用するための研修等の充実 [①⑧]
ケ 生徒の学びを支援し、自ら学び続ける教職員の育成 [⑧]
→優秀で意欲のある人材の確保 [⑥⑧]
→研修の充実 [⑥⑧]
コ 持続可能な推進体制の構築 [①⑤]
→地域と連携・協働した学校づくりの推進 [⑧]
→働き方改革の推進 [⑧]
→経営方針の明確化 [⑦]
サ その他 [⑦]
→モデル校等による取組内容の実践・研究
→高等専門学科設置に関する知事部局との連携

将来を見据えた整理

- 1 県立高等学校と私学との関係について
◇滋賀の高校教育について、公私が建設的に議論する定期的な協議の場が必要
2 県立高等学校の学校規模について
◇規模の大小にはそれぞれメリット・デメリットがあり、それぞれに特徴がある
◇地域の実情に応じた様々な規模の高校において、生徒の力を伸ばす教育が必要
3 将来に向けた議論の必要性について
◇県立高校は地域活性化等の多面的な機能をもつ→市町等の関係者との議論が必要
◇県が全県的視野から魅力化の方向性を提示→関係者の意見を丁寧に聞き魅力化を図る
4 入学者選抜の在り方について
◇時代の変化とともに、より良い選抜方法の課題整理と検討が必要

	区分	実施時期	主な内容	入学定員	出願要件	出願変更	二次選抜
学校推薦型選抜	推薦選抜	2月上旬	*個人調査報告書、推薦書等 *面接、作文または実技検査	*募集定員の 専門学科50% 総合学科40% 普通科30% を上限	*中学校長の推薦 *現役に限る *1人1校、1課程、 1学科(科)限り	なし	なし
	スポーツ・文化芸術推薦選抜		*個人調査報告書、推薦書等 *実技検査 *面接、作文または小論文	*推薦選抜・特色選抜の募集枠の50%を上限 *1競技・種目・部門につき10名以内	*中学校長の推薦 *現役に限る *1人1校、1課程、 1学科(科)限り *学校ごとに競技・種目の要件基準あり *推薦選抜、特色選抜との併願可		
総合・学力型選抜	特色選抜	3月上旬	*個人調査報告書、志望理由書 *口頭試問、小論文、総合問題または実技検査	*募集定員の 専門学科50% 総合学科40% 普通科30% を上限	*志望動機が明白 *1人1校、1課程、 1学科(科)限り	あり 1回	あり
	一般選抜		*個人調査報告書 *学力検査実施教科等の成績	*募集定員から上記3つの選抜による入学許可予定者を減じた人数	*1人1校、1課程、 1学科(科)限り *普通科と専門学科の両方またはいずれかを志望できる学校出願制度あり		

## 入学者選抜制度の主な変遷

年度	主な改善内容
平成6年度	推薦選抜の普通科への拡大
平成7年度	推薦選抜にて実技検査の実施
平成9年度	専門学科では特色に応じて推薦枠を拡大
平成15年度	2次選抜の実施(定員に満たない学校・学科)
平成18年度	普通科における通学区域の廃止(全県一区制) 特色選抜の実施
平成27年度	スポーツ・文化芸術推薦選抜の実施
令和3年度	一般選抜の追検査の実施

- 推薦選抜・特色選抜の制度から16年が経過
- スポーツ・文化芸術推薦選抜の導入から7年  
(滋賀国スポ・障スポ開催まであと3年)
- 平成28年度には、全県一区制度の検証、制度の継続を決定

## 入学者選抜制度の現状と課題

### 推薦選抜 実施校:33校

現状	・全日制の全ての学校において推薦選抜、特色選抜のいずれか、もしくは両方を実施
成果	・中高の信頼関係のもと目的意識の高い生徒が受検しており、入学後の活躍が期待できる
課題	・学力検査を課さないため、学習の定着が十分でない場合がある ・推薦枠を拡大したい学校や、推薦枠を充足できない学校がある

### スポーツ・文化芸術推薦選抜 実施校:18校

現状	・強化拠点校に指定された学校が、指定された競技・種目、部門、種目において実施
成果	・生徒の強みを活かし、スポーツ・文化芸術に優れた資質を持つ生徒を育成できる
課題	・競技種目、地域、学校規模などにより事情が大きく異なる ・中学校区を超えた活動、クラブチーム等学校外での活動のあり方、部活動のあり方

### 特色選抜 実施校:15校

現状	・全日制の全ての学校において推薦選抜、特色選抜のいずれか、もしくは両方を実施
成果	・受検機会の複数化により、生徒のチャレンジする機会を創出できている
課題	・総合問題のあり方、実施校の作問業務に対する負担の大きさ ・多くの受検生が不合格となることへの心理的負担への対応、中学校での指導

### 一般選抜 実施校:45校 学校出願実施校:5校

現状	・全日制、定時制の全ての学校において実施
成果	・記述式の問題を採用することで、自らの言葉で論述したり、適切に表現する力を確認している
課題	・入試日程、学校行事の過密化、中学校での学習時間の確保(入試全般) ・作問業務の業務量の負担とセキュリティ、インフルや新型コロナによる追検査実施

## 入学者選抜制度 これからの方向性

### ①新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ-審議まとめ- (令和2年11月中央教育審議会初等中等教育分科会)

○ 高等学校の入学者選抜は、入学者の受入れに関する方針において示される入学時に期待される生徒像と整合性のある入学者選抜が行われることが必要である。その際、高等学校による選抜という視点とともに、多様な能力・適性や興味・関心を持つ生徒が、いかに自分に合った進路を的確に選択できるようにするかという視点を持ちながら、選抜方法の多様化や評価尺度の多元化を推進することが求められる。

○ 公立高等学校の入学者選抜においては、教育委員会が作問する統一的な学力検査問題を用いた学力検査が行われることが一般的だが、各教育委員会が一定の範囲で具体的な選抜方法について各高等学校の判断に委ね、各高等学校の入学者の受入れに関する方針に基づく入学者選抜が可能となるような工夫を教育委員会が行うことが考えられる。なお、学力検査の問題作成については、教育委員会による作問、各高等学校の独自の作問のいずれにおいても、単に知識の量を問うような問題はできるだけ避け、思考力や分析力などを問う問題の出題を一層工夫することが必要である。

また、推薦型入学者選抜をはじめとして、自己申告書や面接等に基づき選抜を行う形態の入学者選抜においては、自己申告書の記載内容や面接での応答等に表れる生徒像が入学者の受入れに関する方針に合致するかどうかという観点から判定することが求められる。

### ②「令和の日本型学校教育」の構築を目指して -答申- (令和3年1月中央教育審議会)

○ 各高等学校においては、スクール・ポリシーを起点としたカリキュラム・マネジメントを適切に行い、教育課程や個々の授業、入学者選抜の在り方等について組織的かつ計画的に実施するとともに、PDCA サイクルを通じて 不断の改善を図る必要がある。

### ③これからの県立高等学校の在り方について -答申- (令和3年10月滋賀県立高等学校在り方検討委員会)

○ 入学者選抜の在り方は、中学生にチャレンジする機会をどう与えるかという意味で、影響が大きいことから、時代の変化とともにどのような課題があるか整理し、入学者選抜をより良くしていくことが大切である。

各高等学校が求める生徒像や卒業後の姿、教職員の働き方改革の観点等も踏まえて、様々な視点から入学者選抜の在り方を検討していくことが望まれる。

全国の公立高等学校入学者選抜の実施状況

資料3-2

都道府県	推薦選抜			備考	特色選抜	備考	一般選抜	備考	特別選抜				備考	
	学校推薦	自己推薦	その他						海外帰国子女	外国人生徒	中高一貫連携校	その他		
1 北海道	○	○		自己推薦は1校のみ実施	×		○				○			
2 青森	×	×			○		○							
3 岩手	○	×			×		○						連携型選抜	
4 宮城	×	×			○		○				○			
5 秋田	×	○		前期	×		○							
6 山形	×	○		専門学科、総合学科のみ実施	×		○				○			
7 福島	×	×			○	前期	○	前期			○			
8 茨城	×	×			○		○		○	○	○			
9 栃木	×	×			○		○						フレックス特別選抜	全国募集あり
10 群馬	×	×			×		○	前期・後期型	○		○		フレックススクール前期選抜	
11 埼玉	×	×			×		○		○	○			不登校生徒特別選抜	
12 千葉	×	×			×		○		○	○			地域連携アクティブスクール選抜	
13 東京	○	×	文化・スポーツ等特別推薦、理数等特別推薦		×		○	前期・後期型	○	○	○		バカロレアコース選抜	
14 神奈川	×	×			×		○		○	○	○			
15 新潟	○	×		特色化選抜として実施	○		○		○					県外募集あり
16 富山	○	×			×		○							
17 石川	○	×			×		○				○			
18 福井	○	×			○		○			○	○			
19 山梨	×	○		前期	×		○	後期						全国募集あり
20 長野	×	○		前期	×		○	後期						
21 岐阜	×	×			×		○		○	○	○			県外募集あり
22 静岡	×	×			×		○		○	○	○		長期欠席者特別選抜	県外募集あり
23 愛知	○	×			×		○		○	○	○			
24 三重	×	×	スポーツ特別枠選抜(自己推薦)		×		○	前期・後期型	○	○	○			

○は実施している。×は実施していない。

都道府県	推薦選抜			備考	特色選抜	備考	一般選抜	備考	特別選抜				備考	
	学校推薦	自己推薦	その他						海外帰国子女	外国人生徒	中高一貫連携校	その他		
25 滋賀	○	×	スポーツ・文化芸術推薦		○		○							全国募集あり
26 京都	×	×			×		○	前期・中期型	○	○				長期欠席者特別選抜
27 大阪	×	×			×		○	専門学科特別選抜あり	○	○				知的障がい生徒自立支援コース特別選抜
28 兵庫	○	×			○		○		○	○	○			
29 奈良	○	×			○		○							
30 和歌山	×	×	スポーツ推薦		×		○				○			農業科特別選抜
31 鳥取	○	×			×		○							
32 島根	○	×	スポーツ推進指定校推薦		×		○				○			
33 岡山	×	○			○		○		○		○			全国募集あり
34 広島	○	×		選抜（Ⅰ）	×		○	選抜（Ⅱ）	○	○	○			
35 山口	○	×			×		○				○			
36 徳島	×	×			○		○				○			連携型選抜
37 香川	×	○			×		○							全国募集あり
38 愛媛	○	×			×		○							
39 高知	×	×			×		○	A日程、B日程			○			チャレンジ選抜A（長期欠席者等）
40 福岡	○	×			○		○							
41 佐賀	×	×			○	スポーツ文化推進指定校のみ実施	○				○			
42 長崎	×	×			○	特色選抜と文化・スポーツ特別選抜	○	前期・後期型			○			離島留学特別選抜
43 熊本	×	×			○		○	前期・後期型			○			
44 大分	○	×		推薦A、B	×		○		○	○				
45 宮崎	×	○	スポーツ推薦		×		○				○			全国募集あり
46 鹿児島	○	×			×		○		○	○	○			
47 沖縄	○	×			×		○				○			

推薦選抜を実施しない・・・20府県

特色選抜を実施する・・・16県

○は実施している。×は実施していない。



## 推薦選抜の一例

### ○新潟県・・・学校ごとに実績要件を定めた特色型の学校推薦型選抜

選抜の名称	特色化選抜
実施学校数【決定方法】	31校【実施するか否かは各高等学校長と教育委員会が協議して決定】
入学定員に占める割合	各高等学校の募集定員の原則 10%を上限の範囲として、各高等学校長と教育委員会が協議して定める。(一部、上限の例外がある。)
出願の要件	対象となるのは、スポーツ活動、文化活動、科学分野の活動等に秀でた実績があり、各高等学校の特色ある教育推進の中心的役割を果たすことが期待される者。秀でた実績について、各高等学校が定める実績要件を満たし、中学校長の推薦が必要。出願は、1人につき、1校1学科とする。
選抜方法の概要・ 合否判定の方法	「特色化選抜推薦書」「調査書」「面接の結果」および面接以外の検査を実施する学校・学科においては、「当該検査の結果」を資料とし、「入学者選抜会議」の審議を経て、入学者を選抜する。

### ○山梨県・・・自己推薦型選抜

選抜の名称	前期募集
実施学校数【決定方法】	26校【独自に入試を行う市立高校1校を除く、全ての全日制公立高校で実施】
入学定員に占める割合	総定員に対し、普通科・理数科など専門教育学科は 40%以内、職業に関する学科・総合学科は 50%以内で各高等学校長が定める。
出願の要件	当該高等学校を志願する動機や理由が明白・適切で、各校が定める「出願条件」に適合すると自ら考える者。1人につき1校1学科に限る。
選抜方法の概要・ 合否判定の方法	各高等学校長が定める「選抜比重に基づき、調査書、学習活動および生活状況に関する中学校長の所見、面接(以上必須)、および各高等学校長が定める検査(特色適性検査、特技、個性表現のいずれか<複数も可>)の成績を総合し、選抜する。

### ○香川県・・・自己推薦型選抜

選抜の名称	自己推薦選抜
実施学校数【決定方法】	24校【県教委が各高校と協議の上で決定】
入学定員に占める割合	県教委が各高校と協議の上で決定
出願の要件	合格した場合は、入学する意思が確実である者。1人につき1校1学科に限る。
選抜方法の概要・ 合否判定の方法	調査書、検査(総合問題、作文、適性検査のうちから各高校が学科ごとに1つを選択して実施)の結果、面接、自己 PR 書に基づいて、各高等学校におく入学者選抜委員会において総合的に判定して行う。

## 一般選抜の一例

○福島県・・・特色選抜と一般選抜を同時に実施、特色を先に判定し、不合格者は一般選抜で再判定

選抜の名称	特色選抜
実施学校数【決定方法】	82校【通信制を除くすべての学校・学科で実施】
入学定員に占める割合	募集定員の5%～50%程度
出願の要件	各高等学校が示す「志願してほしい生徒像」を踏まえ、当該学科を自ら志願する動機・理由が明白かつ適正である者。ただし、一つの高等学校に限り、特色選抜と一般選抜のいずれかまたは両方に出願できることとする。
選抜方法の概要	特色選抜志願理由書、調査書の審査結果、学力検査の成績および面接を資料として、さらに、小論文(または作文)、実技等を実施した場合には、それらの結果を併せて資料として選抜を行う。
学力検査結果と調査書の活用方法	

選抜の名称	一般選抜
実施学校数【決定方法】	82校【通信制を除くすべての学校・学科で実施】
入学定員に占める割合	募集定員から特色選抜または連携型選抜において合格と判定された者の数を除いた数。
出願の要件	一つの高等学校に限り、特色選抜と一般選抜のいずれかまたは両方に出願することができる。
選抜方法の概要	調査書の審査結果および学力検査の成績を資料として、さらに、面接を実施する高等学校においては面接の結果を併せて資料として選抜を行う。
学力検査結果と調査書の活用方法	特定の教科の学力検査の配点の比重を変える傾斜配点を実施することができる。調査書については、学科の特性や学力検査の成績との比重を考慮し、傾斜配点により加点することができる。

○千葉県・・・企業、大学、地域の教育力を活用し、「学び直し」と「実践的キャリア教育」を実施する教育

選抜の名称	地域連携アクティブスクールの入学者選抜
実施学校数【決定方法】	全日制の課程4校
入学定員に占める割合	募集定員の全部
出願の要件	1人につき1校1学科に出願することができる。
選抜方法の概要	中学校の校長から送付された調査書等の書類の審査および各高等学校において実施した検査の結果を資料とし、地域連携アクティブスクールの教育を受けるに足る能力、適性等を総合的に判定して入学者の選抜を行う。
学力検査結果と調査書の活用方法	各高等学校において、選抜・評価方法で定めている。

○奈良県・・・主に専門学科を対象とし、学力検査は3教科(国数英)を各30分で実施

選抜の名称	特色選抜
実施学校数【決定方法】	21校【専門学科、総合学科、普通科の一部コースで実施】
入学定員に占める割合	各学科(コース)の入学定員の100%を募集している。
出願の要件	1人につき1校1学科(コース)に出願することができる。順位を付けて2学科(コース)まで志望することができる学校もある。
選抜方法の概要	学校独自検査、面接、実技検査の中から各学校が選択して実施。さらに、調査書、学力検査(国数英の3教科)の結果と併せて、各学校が総合的に判定を行う。
学力検査結果と調査書の活用方法	調査書の各教科の学習成績の合計点と各検査の得点の合計点を、各学校・学科ごとに、7:3～3:7の比の範囲で扱う。

○徳島県・・・自己推薦の要素を一般選抜に含めて特色選抜としている。学力検査は県内同一問題とし、検査Ⅰ(国社英)、検査Ⅱ(数理英)で実施

選抜の名称	特色選抜
実施学校数【決定方法】	27校【希望する学校・学科で実施】
入学定員に占める割合	普通科は入学定員の6%以内、専門学科・総合学科は13%以内、体育科・芸術科は100%を募集人員とする。
出願の要件	各学校の特色、志願して欲しい生徒像に基づき、スポーツ、文化活動、その他、各高校が定める特色ある活動について、高校ごとに活動実績等の基準を出願要件として具体的に示している。1人につき1校を出願することができる。ただし、その学校に複数の学科がある場合には、学科を志望順に記すことができる。
選抜方法の概要	調査書、活動記録、学力検査(5教科)の成績および実技等並びに各高校が実施した検査(作文、面接)の結果に基づいて、各高校が総合的に判定して選抜する。
学力検査結果と調査書の活用方法	各選抜資料の配点は各高校で独自に定め、予め公表しているが、調査書中の各教科の学習の記録と学力検査の成績は、それぞれ総点の20%以上となるようにしている。

○長崎県・・・前期・後期型 前期は特色・文化スポーツの一般選抜、後期は学力の一般選抜

選抜の名称	前期選抜(A 特色選抜、B 文化・スポーツ特別選抜)
実施学校数【決定方法】	57校【全日制課程および定時制昼間部】
入学定員に占める割合	34.6%
出願の要件	A 特色選抜は、各高校が示す育成したい生徒像・求める生徒像を理解し、当該校で学ぶ意欲を持つ者。B 文化・スポーツ特別選抜は、文化・スポーツの各種大会等で優れた実績を有する者または部活動で優れた資質や能力を有する者で、入学後も継続的に活動を希望する者。ABの同時志願不可
選抜方法の概要	調査書その他必要な書類のほか、基礎学力検査、面接、プレゼンテーション、実技、作文・小論文の中から各高校が選択して実施する検査の結果を資料として選抜を行う。(文化・スポーツ特別選抜はプレゼンテーションを除く)
学力検査結果と調査書の活用方法	検査方法は、複数の方法を選択することができる。また、調査書その他必要な書類および各高校で定めた検査について、各高校でそれぞれの比重を定めて選抜を行う。

## 近年の入学者選抜の改善状況(令和3年度全国高等学校入学者選抜改善協議会資料より)

### ○入学者選抜の方法の改善(主なもの)

千葉県	従来、前期・後期の2回実施していた選抜を1回にまとめて実施する方法にした。それまでの入学者選抜の理念を継承し、学習の成果に加え、中学校での取組や活動経験等、生徒の優れた面を多角的に評価できる選抜とし、学力検査と各学校で定める検査を実施した。具体的な改善点として、①中学校、高等学校における授業時間を確保するため、1回の入学者選抜とし実施時期を遅らせる。②受検生の負担を軽減するため、学力検査を2日に分けて実施する。
新潟県	思考力、判断力、表現力を適切に評価できるように学力検査問題の見直しを行い、また、生徒の負担感を考慮して、各高等学校において学校独自検査実施の検討を行った。その結果、これまでほぼ全ての高等学校(82校中81校)で実施してきた学校独自検査は、14校のみの実施となった。
長崎県	①「推薦入学者選抜」・「一般入学者選抜」を廃止し、「前期選抜」・「後期選抜」を実施した。②「前期選抜」では、各高校が定めた募集定員内で「A特色選抜」と「B文化・スポーツ特別選抜」を実施。また「後期選抜」では、これまで実施していた学力検査(5教科)等を実施。③「一般入学者選抜」で実施していた「志願変更制度」を廃止。④英語と数学の学力検査で実施していた「難易度の異なる2種類の選択問題」を廃止。

### ○学校教職員の負担軽減策(主なもの)

山梨県	全県で統一された校務支援システムを導入した。このシステムから、調査書、出願者一覧表、5段階集計表等、入試に関わる書類を一括で管理する高等学校入学者選抜処理システムへのデータ移行が可能となり、教員の負担軽減となった。
三重県	中学校等の担当者が高等学校に出願書類を提出する方法として、郵送を認めることとした。各高等学校での掲示板による合格者発表に加えて、Webページによる合格者発表を行った。
京都府	入学願書については各志願先高等学校へ提出することとしているが、府内中学校については、各通学圏ごとに日時および会場を設定し、一括して受け付けている。
兵庫県	志願者数等のオンライン報告および集計について、入力の効率化や、複数志願選抜制度による第1志望と第2志望のクロス集計の自動化などの業務改善
高知県	中高連携システムにより、調査書の内容を電子データで高等学校が受け取るようにした。
奈良県	合格発表は例年、各高等学校で受検番号の掲示を行っていたが、各高等学校のWebページと県教育委員会学校教育課のWebページの2箇所において合格者の受検番号を公表した。
佐賀県	県への報告様式の削減①成績一覧表、②行動の記録一覧表の提出を廃止した。また、入学願書のパソコンでの作成を可とし、書類作成の簡素化を進めた。
沖縄県	採点ソフトの使用を認めた。



令和 3 年度  
滋賀県立高等学校入学者選抜結果まとめ  
(全日制・定時制・通信制)

滋賀県教育委員会

## 令和3年度 滋賀県立高等学校入学選抜の概要

- 令和3年度滋賀県立高等学校入学選抜において、推薦選抜（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）実施校は、全日制課程のべ33校48科、定時制課程1校1科。特色選抜（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）実施校は、全日制課程のべ18校18科であった。
- 推薦選抜、特色選抜合わせて6,117人（スポーツ・文化芸術推薦選抜132人を含む）が出願し、3,084人が入学許可予定者となった。
- 一般選抜は、学力検査の受検倍率が1.07倍であった。また、出願変更率は6.1%であった。

<推薦選抜【スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む】> ※（ ）は前年度であり、以下同様。

- 1 出願状況
  - 募集枠 2,113人
  - 出願者数 2,285人 出願倍率：1.08倍（1.05倍）
- 2 受検状況および入学許可予定者
  - 受検者数 2,285人
  - 入学許可予定者数 1,966人 合格率：86.0%（88.0%）

<特色選抜【スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む】>

- 1 出願状況
  - 募集枠 1,118人
  - 出願者数 3,832人 出願倍率：3.43倍（3.39倍）
- 2 受検状況および入学許可予定者
  - 受検者数 3,827人
  - 入学許可予定者数 1,118人 合格率：29.2%（29.4%）

<スポーツ・文化芸術推薦選抜【推薦選抜・特色選抜の内数】>

- 1 出願状況
  - 募集枠 174人
  - 出願者数 144人 出願倍率：0.83倍（0.71倍）
- 2 受検状況および入学許可予定者
  - 受検者数 144人
  - 入学許可予定者数 132人 合格率：91.7%（93.7%）

<一般選抜・学力検査>

- 1 出願状況
  - 出願者数 6,771人（7,139人）
  - 確定出願者数 6,731人（7,101人）
  - 確定出願倍率 全日制1.10倍（1.09倍）、定時制0.47倍（0.64倍）  
全・定合わせて1.07倍（1.07倍）
- 2 出願変更状況
  - 出願変更者数 413人 このうち40人は出願辞退者
  - 出願変更率 6.1%（6.6%）
  - （1）学科別出願変更率では工業学科が9.2%と最も高かった。（前年度は音楽学科の100%）
  - （2）学校出願を除く普通科の出願変更者数は237人で、出願変更率は6.1%（6.6%）
- 3 受検状況
  - 受検者数 6,713人 受検倍率 1.07倍（1.07倍）
  - 全日制6,588人 1.10倍（1.08倍） 定時制125人 0.47倍（0.63倍）
- 4 入学許可予定者
  - （1）学力検査による入学許可予定者数 5,861人 合格率87.3%（87.7%）
  - （2）入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および小学科 23校31学科（26校30科）

<二次選抜>

- 1 二次選抜募集の学校・学科および募集定員  
全日制18校25科269人、定時制5校6学科147人。全・定合わせて23校31学科416人
- 2 出願状況 出願者数 102人 出願倍率 0.25倍（0.25倍）
- 3 受検状況 受検者数 99人 受検倍率 0.24倍（0.25倍）
- 4 入学許可予定者 入学許可予定者数 87人 合格率 87.9%（92.5%）

<入学許可予定者総数および実入学者数>

- 1 入学許可予定者総数 9,032人
- 2 実入学者数 9,029人
- 3 定員充足率 96.5%（96.6%）

# 令和3年度 滋賀県立高等学校入学者選抜結果まとめ

## 目 次

I	全日制の課程および定時制の課程	
1	募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について	・・・ 1
	（1）推薦選抜、特色選抜の結果	・・・ 1
	（2）スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果	・・・ 2
	（3）一般選抜の結果	・・・ 2
	（4）入学者選抜の結果	・・・ 3
2	学科別の受験者数、入学許可予定者数等について	・・・ 4
3	一般選抜における出願変更者数について	・・・ 5
4	一般選抜における面接・作文・実技検査について	・・・ 5
II	単位制 転・編入学、通信制の課程	・・・ 6
III	一般選抜学力検査	
1	出題の方針等	・・・ 8
2	配点等	・・・ 8
3	検査成績	・・・ 8
4	その他	・・・ 8
	【各教科の分析】	
	国 語	・・・ 9
	数 学	・・・ 11
	社 会	・・・ 13
	理 科	・・・ 15
	英 語	・・・ 17



# I 全日時の課程および定時制の課程

## 1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について ※中高一貫教育に係る人数は除く

### (1) 推薦選抜、特色選抜の結果

推薦選抜実施校は、全日制課程の32校（普通科15、専門学科11、総合学科7 のべ33校）、定時制課程の1校（普通科1）であった。特色選抜実施校は、15校（普通科14、専門学科4 のべ18校）であった。推薦選抜、特色選抜は、いずれも2月8日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校・義務教育学校・中等教育学校106校中99校（昨年度107校中100校）、特別支援学校中学部13校中1校（昨年度13校中2校）、県外の中学校は13校（昨年度26校）であった。全日制の出願者数は、普通科で826人（昨年度828人）、農業学科で195人（昨年度225人）、工業学科で325人（昨年度329人）、商業学科で294人（昨年度323人）、家庭学科で90人（昨年度86人）、体育学科で41人（昨年度42人）、美術学科で44人（昨年度24人）、総合学科で462人（昨年度475人）であった。定時制は普通科の8人（昨年度10人）となった。この結果、出願者数合計は、2,285人（昨年度2,342人）となり、出願倍率（募集枠に対する出願者の割合）は、推薦を実施した全日制の普通科では1.15倍（昨年度1.01倍）、専門学科で1.10倍（昨年度1.12倍）、総合学科では0.94倍（昨年度0.97倍）、定時制の普通科は0.67倍（昨年度0.83倍）となり、実施学科全体では1.08倍（昨年度1.05倍）であった。この結果、1,966人が入学許可予定者となり、合格率は86.0%（昨年度88.0%）であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校・義務教育学校・中等教育学校106校中101校（昨年度107校中103校）、県外の中学校は12校（昨年度16校）であった。出願者数は、普通科で3,684人（昨年度3,745人）、理数学科で91人（昨年度86人）、音楽学科で27人（昨年度16人）、今年度より募集を始めた文理探究学科は30人であった。この結果、出願者数合計は3,832人（昨年度3,847人）となり、出願倍率は、普通科では3.55倍（昨年度3.49倍）、専門学科では1.85倍（昨年度1.70倍）となり、実施学科全体では3.43倍（昨年度3.39倍）であった。この結果、1,118人が入学許可予定者となり、合格率は29.2%（昨年度29.4%）であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて3,084人が入学許可予定者となり、合格率は50.5%（昨年度51.6%）であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

学科	項目	募集定員 A	募集枠		出願者数 B	受検者数 B'	出願倍率 B/A'	入学許可 予定者数 C	合格率 C/B' (%)	
			割合(%)	人数A'						
推薦選抜	普通科	2,440	20~30	716	826	826	1.15	683	82.7	
	普通科(定)	40	30	12	8	8	0.67	8	100.0	
	専門学科	農業	400	50	200	195	195	0.98	176	90.3
		工業	720	50	360	325	325	0.90	321	98.8
		商業	480	50	240	294	294	1.23	229	77.9
		家庭	80	40	32	90	90	2.81	32	35.6
		体育	40	85	34	41	41	1.21	34	82.9
		美術	40	75	30	44	44	1.47	30	68.2
		小計	1,760		896	989	989	1.10	822	83.1
	総合学科	1,240	30~40※	489	462	462	0.94	453	98.1	
合計	5,480		2,113	2,285	2,285	1.08	1,966	86.0		
特色選抜	普通科	3,480	25~30	1,038	3,684	3,680	3.55	1,038	28.2	
	専門学科	理数	80	50	40	91	90	2.28	40	44.4
		音楽	40	50	20	27	27	1.35	20	74.1
		文理	40	50	20	30	30	1.50	20	66.7
		小計	160		80	148	147	1.85	80	54.4
合計	3,640		1,118	3,832	3,827	3.43	1,118	29.2		
総合計	9,120		3,231	6,117	6,112	1.89	3,084	50.5		

※音楽高等学校総合学科の推薦選抜募集枠には、40%の他に全国募集枠を含む（上限5名）

## (2) スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果

スポーツ・文化芸術推薦選抜を実施した県立高等学校は、全日制課程の19校（普通科11、専門学科6、総合学科3）のべ20校であった。このうち、推薦選抜実施校は16校（普通科7、専門学科6、総合学科3）、特色選抜実施校は、全日制課程の4校（普通科4）であった。

受検者数144人に対して、入学許可予定者数は132人となり、受検者数に対する合格率は、91.7%（昨年度93.7%）となった。

## (3) 一般選抜の結果

一般選抜は、学力検査定員6,276人に対し、確定出願者数は6,731人であり、確定出願倍率は1.07倍であった。また、受検者数は6,713人であり、受検倍率は1.07倍であった。この結果、5,861人が入学許可予定者となり、合格率は87.3%であった。

二次選抜は、二次選抜定員416人に対し、受検者数は99人であった。この結果、87人が入学許可予定者となり、合格率は87.9%であった。（表2参照）

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目		年度	
		令和3年度	令和2年度
学力検査	学力検査定員 A	6,276	6,649
	出願者数	6,771	7,138
	確定出願者数 (倍率)	6,731 (1.07)	7,101 (1.07)
	受検者数 B (倍率)	6,713 (1.07)	7,090 (1.07)
	不合格者数	852	874
	入学許可予定者数 C	5,861	6,216
	合格率 C/B (%)	87.3	87.7
二次選抜	二次選抜定員 A-C	416	433
	出願者数	102	109
	受検者数 D (倍率)	99 (0.24)	107 (0.25)
	不合格者数	11	8
	入学許可予定者数 E	87	99
	合格率 E/D (%)	87.9	92.5
入学許可予定者数合計 C+E		5,948	6,315

※上記には、追検査受検者1名を含む。

(4) 入学者選抜の結果

県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は9,032人であった。全日制では募集定員9,080人に対して入学許可予定者数8,893人、定時制は募集定員280人に対して入学許可予定者数139人となった。

入学許可予定者数の内訳は、推薦選抜1,850人、特色選抜1,102人、スポーツ・文化芸術推薦選抜132人、一般選抜5,861人で、二次選抜87人であった。

4月8日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は9,029人で、募集定員の96.5%（昨年度96.6%）となった。（表3参照）

表3 入学許可予定者数等

項目	年度	令和3年度			令和2年度
		全日制	定時制	合計	
※県内中学校卒業予定者数				13,435	13,942
募集定員 A		9,080	280	9,360	9,840
推薦選抜入学許可予定者数		1,842	8	1,850	1,956
特色選抜入学許可予定者数		1,102	-	1,102	1,116
スポーツ・文化芸術推薦選抜入学許可予定者数		132	-	132	119
一般選抜入学許可予定者数		5,736	125	5,861	6,216
二次選抜入学許可予定者数		81	6	87	99
総計	入学許可予定者総数	8,893	139	9,032	9,506
	実入学者数 B			9,029	9,503
	定員充足率 B/A(%)			96.5	96.6

※県内中学校卒業予定者数は、令和3年3月中学校、義務教育学校および特別支援学校中学部卒業予定者の第2次進路志望調査による。

## 2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科、農業学科、工業学科、音楽学科、総合学科の5学科（昨年度6学科）であった。（表4および別表参照）

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

項目		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	文理	総合	
募集定員 A		9,360	6,080	400	800	480	80	80	40	40	40	40	1,280	
推薦選抜	募集枠（人数）	2,113	728	200	360	240	32	-	34	-	30	-	489	
	受検者数 B	2,285	834	195	325	294	90	-	41	-	44	-	462	
	入学許可予定者数 C	1,966	691	176	321	229	32	-	34	-	30	-	453	
	合格率 C/B(%)	86.0	82.9	90.3	98.8	77.9	35.6	-	82.9	-	68.2	-	98.1	
特色選抜	募集枠（人数）	1,118	1,038	-	-	-	-	40	-	20	-	20	-	
	受検者数 D	3,827	3,680	-	-	-	-	90	-	27	-	30	-	
	入学許可予定者数 E	1,118	1,038	-	-	-	-	40	-	20	-	20	-	
	合格率 E/D(%)	29.2	28.2	-	-	-	-	44.4	-	74.1	-	66.7	-	
一般選抜	学力検査	学力検査定員 A-(C+E)	6,276	4,351	224	479	251	48	40	6	20	10	20	827
		確定出願者数	6,731	*3,900	218	371	247	74	**	**	7	**	**	778
		受検者数 F	6,713	*3,892	218	365	247	74	**	**	7	**	**	777
		入学許可予定者数 G	5,861	4,182	202	360	236	48	40	6	7	10	20	750
		合格率 G/F(%)	87.3	***	92.7	98.6	95.5	64.9	***	***	100	***	***	96.5
	二次選抜	二次選抜定員 A-(C+E)-G	416	170	22	119	15	-	-	-	13	-	-	77
		出願者数	102	41	5	17	14	-	-	-	0	-	-	25
		受検者数 H	99	40	5	17	14	-	-	-	-	-	-	23
		入学許可予定者数 I	87	36	5	17	14	-	-	-	-	-	-	15
		合格率 I/H(%)	87.9	90.0	100	100	100	-	-	-	-	-	-	65.2
総計	入学許可予定者数	9,032	5,947	383	698	479	80	80	40	27	40	40	1,218	
	実入学者数 J	9,029	5,946	383	697	479	80	80	40	27	40	40	1,217	
	過不足 J-A	-331	-134	-17	-103	-1	0	0	0	-13	0	0	-63	
	定員充足率(%)	96.5	97.8	95.8	87.1	99.8	100	100	100	67.5	100	100	95.1	
前年度定員充足率(%)		96.5	97.0	99.5	91.5	100	100	100	100	40.0	77.5	-	96.9	

\* 学校出願の数を除いた数。学校出願の数は、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

\*\* 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

\*\*\* 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

別表 学校出願

項目		学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術	普通	文理探究
一般選抜	学力検査	学力検査定員	364	40	224	6	84	10	128	20
		確定出願者数	574		314		100		148	
		受検者数	572		314		99		148	
		入学許可予定者数	364	40	224	6	84	10	128	20

### 3 一般選抜における出願変更者数について

出願者数 6,771 人に対し、出願変更者数は 413 人（昨年度 471 人）で、出願変更率は 6.1%（昨年度 6.6%）となり、確定出願者数は 6,731 人であった。

各学科別の出願変更率は、美術学科の 10.6% が最も高く（昨年度の最高は音楽学科が 100%）、次に、工業学科の 9.2% であった。（表 5 参照）

表 5 学科別の出願変更者数

（昨年度）

項目		学力検査 定員	出願者数 A	出願変更者数 B (第1志望を取り下げた数)	出願 変更率 B/A(%)	確定 出願者数 C	出願 変更者数	出願 変更率 (%)
学科	* 普通	3,551	3,915	237	6.1	3,900	281	6.6
	農業	224	215	18	8.4	218	30	12.6
	工業	479	371	34	9.2	371	20	4.9
	商業	251	222	8	3.6	247	9	3.6
	家庭	48	79	6	7.6	74	3	4.9
	音楽	20	7	0	0	7	1	100
	総合	827	775	35	4.5	778	69	7.6
学校 出願	普通・理数	404	602	37	6.1	574	23	4.1
	普通・体育	230	331	23	6.9	314	33	9.6
	普通・美術	94	104	11	10.6	100	2	2.3
	普通・文理	148	150	4	2.7	148	—	—
	合計	6,276	6,771	413	6.1	6,731	471	6.6

\* 普通科は学校出願を除く

### 4 一般選抜における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は、全日制の課程では湖南農業高等学校、八日市南高等学校、愛知高等学校の 3 校 7 科、定時制の課程では、大津清陵高等学校（夜間）の 1 校 1 科であった。

実技検査を実施した学校は、石山高等学校（音楽科）、草津東高等学校（体育科）、栗東高等学校（美術科）の 3 校 3 科であった。

なお、作文の実施校はなかった。

## II 単位制 転・編入学、通信制の課程

### 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部（滋賀県立大津清陵高等学校に限る。）で実施した転・編入学については、定員40人に対し17人（昨年16人）が入学許可予定者となり、0.43倍（昨年度0.40倍）の倍率となった。二次選抜では、1人（昨年1人）が入学許可予定者となり、合計18人（昨年度17人）が入学許可予定者となった。

また、通信制の課程については、定員320人のところ、一次選抜では127人の出願者（昨年度173人）に対して、127人（昨年度173人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、19人（昨年度22人）が入学許可予定者となり、合計146人（昨年度195人）が入学許可予定者となった。（表6参照）

表6 募集定員，志願者数，入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者数 D	二次選抜		合計	
		募集定員 A	出願者数 B	入学許可 予定者数 C	率 C/A(%)		出願者数	入学許可 予定者数 E	入学許可 予定者数 F=C-D+E	募集定員 との差 F-A
令和3 年度	単位制 転 編 入	40	18	17	0.43	0	1	1	18	-22
	通信制	320	127	127	0.40	0	19	19	146	-174

令和2 年度	単位制 転 編 入	40	16	16	0.40	0	1	1	17	-23
	通信制	320	173	173	0.54	0	22	22	195	-125



### Ⅲ 一般選抜学力検査

#### 1 出題の方針等

問題の作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、単なる知識量をみるのではなく、思考力・判断力・表現力を問う設問や自らの言葉で表現する記述式の設問などの工夫を凝らした。

また各教科の学力検査問題は、平成15年度入学者選抜から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。

国語では、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみることをねらいとした。

数学では、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組みやはたらきについて知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみることをねらいとした。

英語では、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を正確に理解する力、自分の考えを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

#### 2 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点満点（5教科合計で540点満点）で実施した。

#### 3 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

検査教科ごとの受検者の平均点は、国語60.4点、数学38.0点、社会40.3点、理科47.4点、英語50.5点であった。

#### 4 その他

今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、臨時休業が実施された。このような事態の重要性、緊急性を踏まえ、令和3年度の高等学校入学者選抜については、入学志願者一人ひとりが安心して受検に臨めるよう、令和2年5月13日付2文科初第241号「中学校等の臨時休業の実施等を踏まえた令和3年度高等学校入学者選抜等における配慮事項」にもとづき、令和2年7月29日付滋教委高第944号および滋教委幼小中第601号にて出題範囲等を配慮した。



# 令和3年度 国 語

## 1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、国語を適切に表現し正確に理解する基礎的な力をみるようにした。

また、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみるようにした。

## 2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「言葉の力や表現といった国語にふさわしい内容の素材文であり、多くの生徒に読ませたい文章であった。」「文章の中に詩が引用されていたり、資料として絵が挿入されていたりするなど、共通テストにもつながる傾向の問題であり、情報を適切に整理して答えさせる設問となっていた。」「難易度が適切であり、設問のバランスもよかった。」という意見が主なものであった。

そのほかに、「ホワイトボードを使った話し合いの様子は、学習場面の設定としてよかった。」「茨木のり子の詩や中村草田男の俳句など高質の短詩型文学が出題されていたことは、言語文化の学習活動とつながるもので大変評価できる。」などの意見があった。

## 3 解答の分析

全体をとおして、漢字や語句の使い方に関する基礎的・基本的な知識・技能の定着をみる問題や、資料を読み比べ、表現の違いをとらえる問題は正答率が高かった。一方、文脈の中における語句の意味を的確にとらえて内容をまとめる問題や、知識や体験と関連付けて自分の考えをまとめる問題は正答率が低かった。様々な種類の文章に触れ、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする力を育みながら、文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、それらの効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読む力を身に付けることが求められる。また、読み取った内容を適切に表現する力を身に付けるために、語感を磨き、語彙を豊かにする言語活動に主体的に取り組み、文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えを形成する学習活動の充実がより一層求められる。

㊦は、「読むと書く」ということについて書かれた文章を素材にして、文脈の中における語句の意味を的確にとらえてまとめる力、文章中の言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、詩の内容をとらえる力、二つの文章を比較し、表現の違いをとらえる力をみる問題であった。

表現の違いをとらえる問題の正答率は高かったが、文脈の中における語句の意味を的確にとらえてまとめる問題の正答率は低かった。文章全体と部分との関係を的確にとらえ、目的に応じてまとめる力を身に付けることができるような学習活動を重視することが求められる。また、比喩表現の説明については正答率が大変低かった。文章の展開や様々な表現効果について評価しながら読む態度を育成し、自分の考えの形成につながるような言語活動が望まれる。

㊧は、絵本について説明された文章や資料を素材にして、文章中の語句の意味を理解したり、話の展開に即して内容をとらえたりする力、文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをまとめる力をみる問題であった。

話の展開に即して内容をとらえる問題や知識と関連付けて自分の考えをまとめる問題の正答率が低かった。記述式解答において、目的や条件に応じて的確に表現できるよう、構成や展開、表現の仕方について評価しながら文章を読む活動に積極的に取り組み、とらえた内容を対比的にまとめたり、具体的な例示や根拠を用いて表現したりする学習活動の充実が求められる。

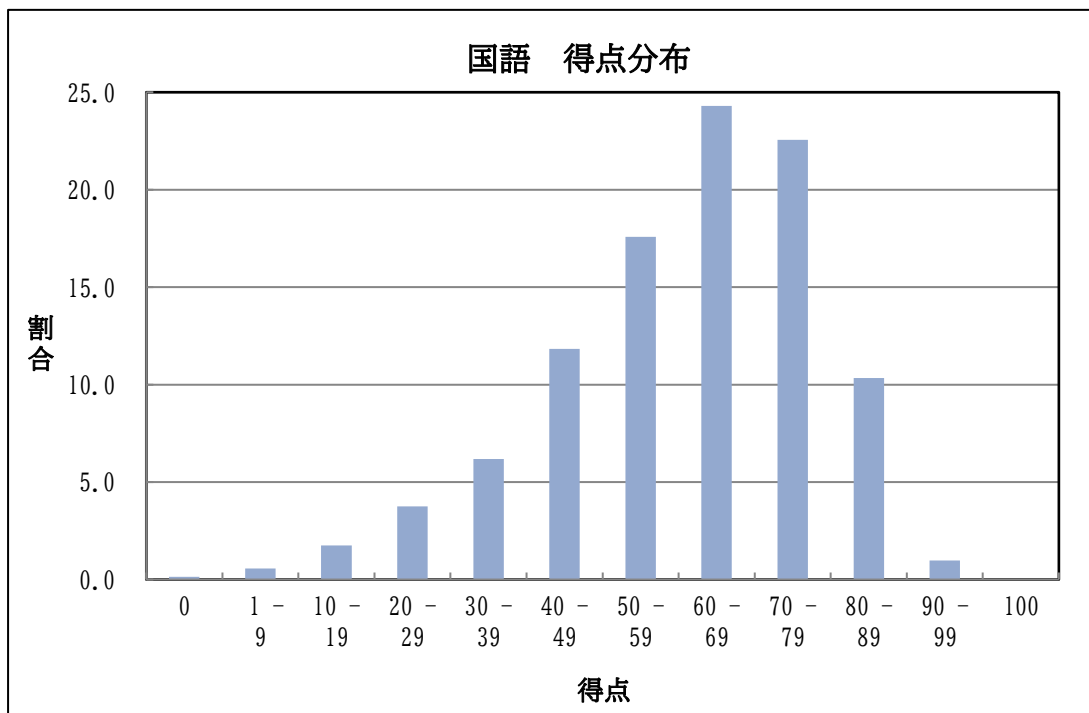
㊨は、漢字の問題については全体的に正答率が高く、基礎的・基本的事項については身に付いている。口語文法の決まりについての問題は、正答率がやや低かった。口語文法の決まりについて適切に理解する学習活動が求められる。俳句の決まりや作品に表れている書き手の思いを適切にとらえることについては概ね理解できている。様々な種類の作品に触れる学習を通して言語文化に親しみ、効果的な表現方法や作品を味わう力を身に付ける言語活動の充実が望まれる。

## 国 語

問題区分		正答率 (%)
㊦	1	19.3
	2	61.7
	3	47.1
	4	73.4
	5	2.5
㊧	1	74.6
	2	9.6
	3	59.5
	4	42.3

問題区分		正答率 (%)
1	①	60.4
	②	89.8
	③	29.1
	④	75.8
	⑤	66.3
2	①	95.2
	②	96.5
	③	97.4
	④	65.1
	⑤	59.8
3		66.2
4	①	64.9
	②季語	84.4
	②季節	71.3
	③イ	87.4
	③カ	74.0

年 度	平均点	標準偏差
令 3 (100 点満点)	60.4	17.5



# 令和3年度 数 学

## 1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）に定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、数学的な見方や考え方をみるようにした。

また、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみるようにした。

## 2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般としては、「基礎・基本を確かめる計算問題や日常生活に関連付けた問題など中学校で学習する内容がまんべんなく出題されており、数学の知識・技能が身に付いているかを測る上で良問であった。」「日常的に使うことを数学の問題としてとらえ、会話の中から問題の状況を数学的に表現し処理する力を問う問題となっていた。」「単純な計算能力だけでなく、文章読解力、情報を整理し、問題解決への手段を導き出す能力など近年必要とされている力を問う良問であった。」などといった意見があった。

各設問については、「**1**は全体的に基本的な問題で構成されており、受検生の基礎的な学力を測るのに適していると思われる。」「**2**は、身近な題材であり基本的な問題から難しい問題までバランスよく出題されていた。」「**3**は、図形の性質をさまざまな角度から考えさせる問題であった。」「**4**は、面積と辺の長さの関係を見だし、数学的に処理する力をみる良問であった。」などの意見があった。

## 3 解答の分析

全体として、数や式の計算、方程式等の基礎的・基本的な事項や概念については、おおむね理解できているといえる。一方、基礎的・基本的な知識・技能を問う問題でも、一つの問題で複数の知識・技能を問う問題や題意を正確に読み取らなければならない問題になると、正答率が大幅に下がった。基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるだけではなく、その知識・技能を相互に関連付けたり、体系的に学ぶこと、題意を正確に読み取る力を育成することが望まれる。さらに、解答にいたるまでに複数の段階を経なければならない問題、自分の言葉で表現し説明する問題、空間認識に関する問題で正答率が低くなった。今後は、論理的に考察し、数学的な表現を用いて筋道立てて説明する活動や、観察や操作、実験などを通して考察する活動を通して、習得した知識を活用し、思考力・判断力・表現力等を育成することが望まれる。

**1**は、数と式の計算、連立方程式、2次方程式に関する問題について、正答率が比較的高く、よく理解できていた。基礎的・基本的な知識・技能を複数用いて解答する問題で正答率が低かった。基本的な知識・技能を相互に関連付けて活用する力の育成が望まれる。

**2**は、空間図形について展開図を用いて数学的に表現し処理する力を問う問題であった。空間図形を平面上に表現し、性質を見いだす問題や解答にいたるまでに複数の段階を経なければならない問題において正答率が低かった。観察や操作、実験などを通して考察する活動を通して空間図形についての理解を一層深め、論理的に考察し表現する力の育成が望まれる。

**3**は、図形の性質を基本的な知識・技能をもとにして論理的に確かめたり、図形の性質を用いて論理的に考察し表現する力を問う問題であった。題意を正確に読み取らなければならない問題において正答率が低かった。与えられた情報を正確に読み取って適切な手法を用いて分析し、数学的に表現・処理する力の育成が望まれる。

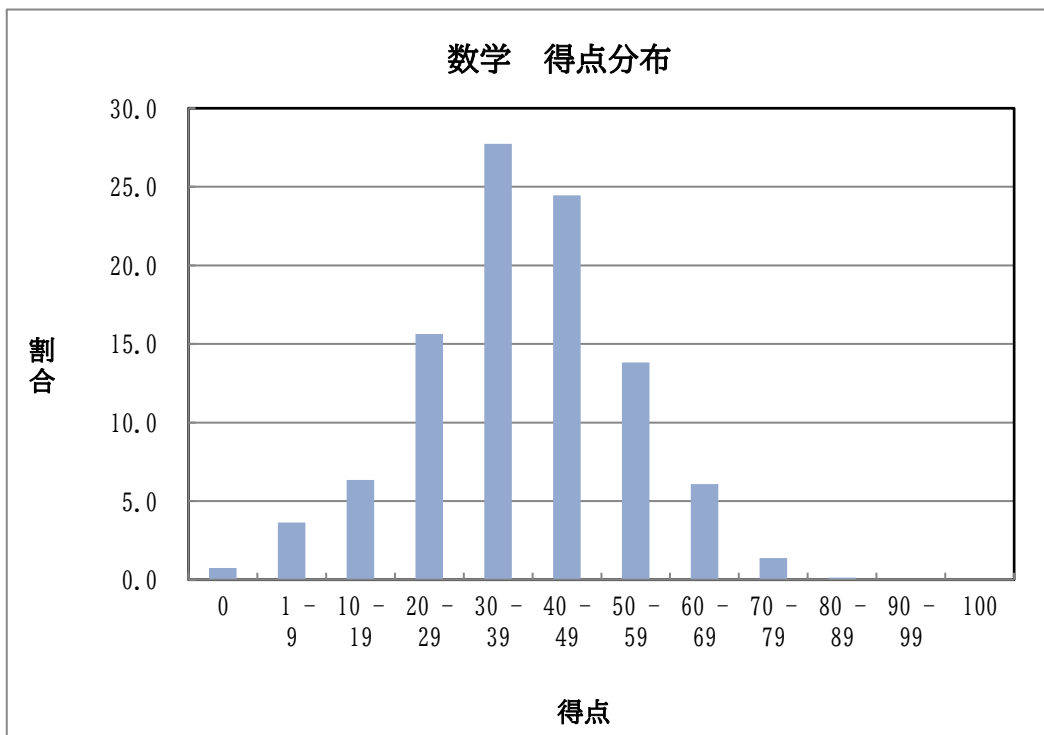
**4**は、日常の生活を題材にし、与えられた図の中に隠れた数量関係を見だし、関数を用いて数学的に表現し処理する力を問う問題であった。題意を正確に読み取り、与えられた複数の情報の中から必要な情報を読み取る問題、解答にいたるまでに複数の段階を経なければならない問題において正答率が低かった。習得した知識・技能をそのまま活用するだけではなく、題意を正確に読み取り、習得している知識・技能の中から、適切な知識を活用して粘り強く考察し、数学的に表現・処理する力の育成が望まれる。

## 数 学

問題区分		正答率 (%)
①	(1)	93.4
	(2)	88.6
	(3)	82.2
	(4)	80.2
	(5)	77.6
	(6)	83.4
	(7)	62.9
	(8)	37.4
	(9) アイ	23.3
	(9) 最頻値	35.1

問題区分		正答率 (%)
②	(1)	32.1
	(2)	10.6
	(3)	12.7
	(4)	0.7
③	(1)	32.6
	(2)	1.4
	(3)	14.0
④	(1)	36.7
	(2)	2.9
	(3)	0.4
	(4)	0.1

年 度	平均点	標準偏差
令3 (100点満点)	38.0	15.1



# 令和3年度 社 会

## 1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に示された内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得をみるようにした。

また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみるようにした。

## 2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「地理、歴史、公民の各分野の内容が融合されており、資料等を活用し考えさせる問題であった。」、「単なる暗記では解答することができない内容であり、新学習指導要領に示された学力が問われる出題であった。」、「基礎的・基本的な中学校で学習しておくべき用語、事象などがおさえられた出題であった。」などの意見があった。

設問については、「世界の地理的事象の特色を理解した上で、様々な資料を活用するように工夫されていた。」、「日本地図や歴史地図を用いて、地理的分野と歴史的分野の融合的な問題であった。」、「歴史的分野、公民的分野とも滋賀県が扱われており、Think Globally, Act Locally の視点からの出題であった。」などの意見があった。

## 3 解答の分析

全体として、地理、歴史、公民の三分野における基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得はおおむねできている。正答率が低い問題に共通するのは、基礎的・基本的な知識、概念を組み合わせる導いたり、資料から適切な情報を取り出して、多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみたりするものであり、これらの力が不十分であると考えられる。基礎的・基本的な知識を正確に習得したり、何が問われているのかを正確に読み解き、図表やグラフから適切な情報を選択し、蓄積した知識から判断し、自らの言葉で表現したりする力の育成が必要である。社会科の学習においては、引き続き、基礎的・基本的な知識や技能を正確に身につけたうえで、各種の資料を主体的に活用したり、対話的に意見を交流したり、自分の言葉で論述したりして、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力など「読み解く力」を育成する必要がある。

①は、世界のおもな農産物を題材に、世界の地域的特色についての理解をみるとともに、各地域の地理的事象の特色や地図や環境問題などと関連付けて、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。気候や農業についての基本的な知識をみる問題の正答率は高く、中学校での学習の成果がうかがえる。一方で、地理的、社会的事象を適切な形で表現する問題の正答率が低く、知識や資料から適切な情報を取り出して、文章にまとめる力を育成する必要がある。

②は、外国と深い関係にあった日本の地域を題材に、古代から現代に至る各時代の外国とのかかわりについての理解をみるとともに、それぞれの時代の産業や交通の変化について、考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。資料や略地図から得た情報を、自分の持っている知識と組み合わせ、適切な文章で答える問題で正答率が低かった。基礎的・基本的な知識の確実な習得とともに考察力、表現力を総合的に育てていく必要がある。

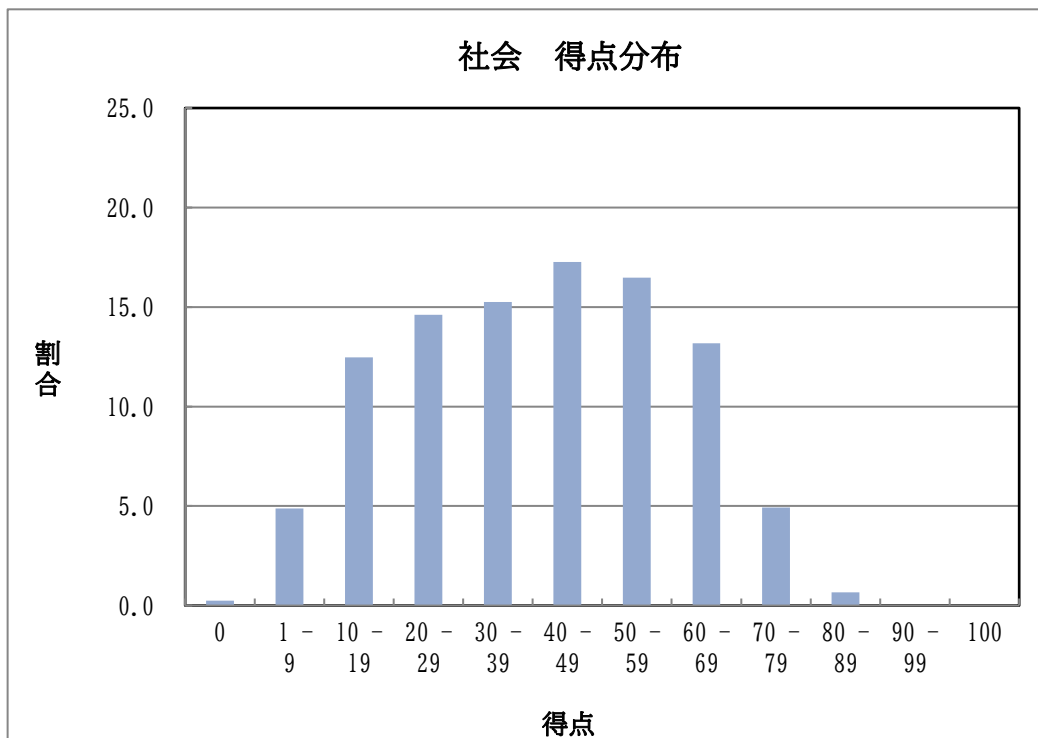
③は、国会、裁判所や地方自治を題材に、国会、裁判所などの役割についての理解をみるとともに、国と地方自治体の関係や、地方財政の課題について、考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。基礎的・基本的な知識や技能を正確に表現したり、資料から得た情報を適切に文章にまとめたりする問題で正答率が低かった。今後も日ごろから身の回りの生活と社会との関わりに関心をもち、多面的・多角的に考察し、適切に表現する力を育てていく必要がある。

## 社 会

問題区分		正答率 (%)	
①	1	54.5	
	2	29.8	
	3	(1)	28.7
		(2)	21.6
	4	43.4	
	5	(1)	65.3
		(2)	81.3
	6	28.7	
②	1	32.1	
	2	39.8	
	3	34.2	
	4	6.7	

問題区分		正答率 (%)	
②	5	37.9	
	6	23.7	
	7	4.5	
	8	9.8	
③	1	(1)	5.9
		(2)	46.7
	2	(1)	46.3
		(2)①	52.7
		(2)②	63.0
	3	(3)	43.4
		(1)	56.1
		(2)	12.7

年 度	平均点	標準偏差
令 3 (100 点満点)	40.3	19.3



# 令和3年度 理 科

## 1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な知識と技能をみるようにした。

また、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組みやはたらきについて、知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみるようにした。

## 2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「実験をもとにした問題で生徒の思考力や判断力を必要とする問題であった。」  
「実験を踏まえて現象を考えさせる点は、自然界の認識をしていくうえで大切な視点が含まれている。」  
「普段の学習の成果を問う問題であった。」などの意見があった。

設問については、「物質の溶解や水溶液の濃度について、計算・グラフ・図示などを用いた多様な問題構成であった。」  
「遺伝の分野を複合した問題であり、モデル実験の内容と関連付けた題材となっている。」  
「身近な疑問や課題を、仮説を立てて実験し立証することで自然現象の理解を深める問題となっている。」などの意見があった。

## 3 解答の分析

物理、化学、生物、地学の各分野の基本的な知識や理解を問う問題については正答率が高く、基本的な知識は定着していると考えられる。また、自然の仕組みやはたらきについて理解を問う問題についても正答率が高かった。一方、実験や観察の結果を科学的に考察し説明することを求める問題については正答率が低かった。自然の事物や現象について、原因と結果を明らかにし論理的に表現できるようにすることが必要である。また、課題に対して適切な実験を計画し、得られたデータを適切に処理し分析し解釈する取組も重要となる。モデル実験をもとに自然の事物・現象を考察し、問題を解決するために必要な思考力や判断力を問う問題については、やや正答率が低かった。自然の事物・現象を理解し科学的に考察する力を育成するには、身の回りに起こる自然の事物・現象をモデル実験を通して説明する取組みなどが必要である。さらに、科学的な思考力や判断力、表現力を育成するため、身の回りの事物・現象に興味や疑問をもち、目的意識をもって主体的に観察や実験を行うことが大切である。

①は、ミョウバンの結晶をつくる実験を通して、物質の溶解や水溶液の濃さについての理解をみる問題であった。基本的な知識をみる問題については、正答率が高かった。一方、取り出す結晶の質量がどのように変化するかを求める問題では、正答率が低かった。実験の結果を分析し、質量が変化の様子をグラフを通して捉えることができる力の育成が望まれる。

②は、シロツメクサの観察やモデル実験を通して、遺伝の仕組みや生物の生殖の過程についての理解をみる問題であった。生物の殖え方に関する基本的な知識をみる問題については、正答率が高かった。遺伝の仕組みを調べるモデル実験の結果をもとに、校庭のシロツメクサの遺伝子を推定する力を見る問題については、やや正答率が低かった。実験をもとに仮説を検証し、その結果を文章で表現する学習活動を充実させることが望まれる。

③は、大気の状態が不安定になるときの大気の様子をモデル実験で調べ、気象現象を考察する問題であった。気象についての基礎的な知識や理解をみる問題については、正答率が高かった。一方、実験をもとにあたたかくしめった空気と冷たい空気によって積乱雲が発達する理由を説明する問題については、正答率が低かった。気象現象をモデル実験と関連付けて説明できる表現力の育成が望まれる。

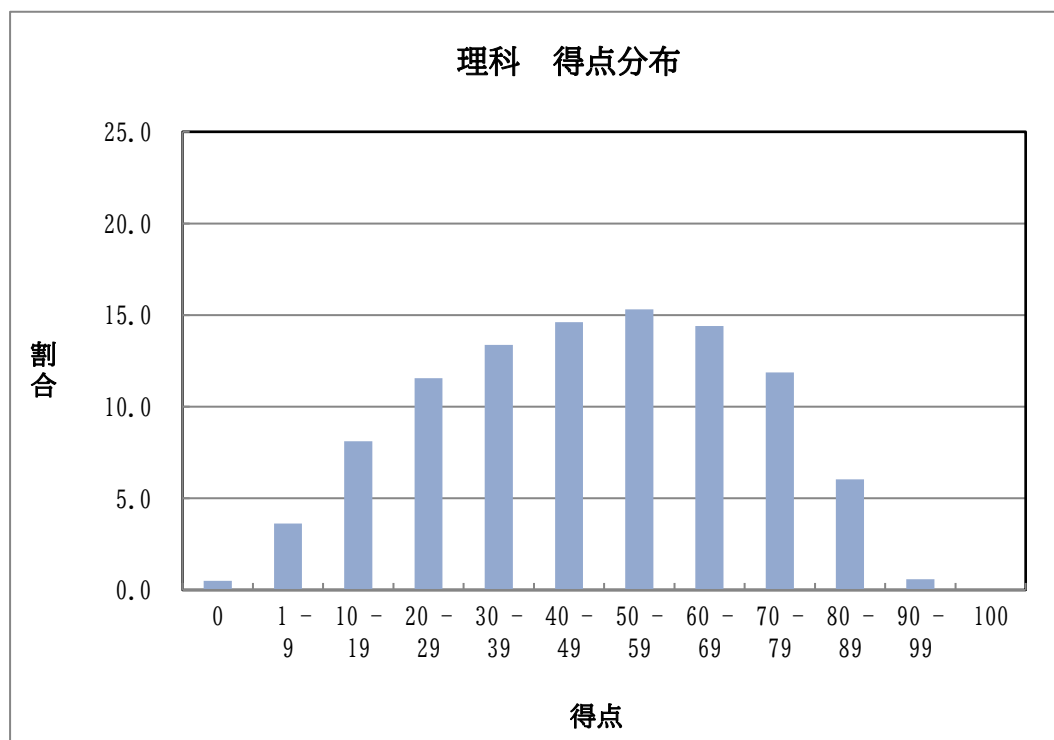
④は、発電装置の実験や台車の運動を調べる実験をもとに、電磁誘導や運動の規則性についての理解をみる問題であった。磁界の変化によりコイルに電流が流れる現象についての知識をみる問題では正答率が高かった。一方、記録テープから台車の速さの変化をグラフに表す問題については、正答率が低かった。また、斜面上の台車にはたらく力を説明する問題や、台車にした仕事の大きさを求める問題については、正答率が低かった。グラフの軸の目盛りを適切に設定して書く力や、斜面上の台車にはたらく力の分解や合成などについて図示することによって運動を理解する力の育成が望まれる。

## 理 科

問題区分		正答率 (%)
①	1	71.2
	2	34.0
	3	60.5
	4	39.7
	5	34.0
	6	51.5
②	1	75.1
	2	56.9
	3	62.6
	4	40.1
	5	30.5

問題区分		正答率 (%)
③	1	61.8
	2	65.6
	3	79.8
	4	35.3
	5	22.7
④	1	59.2
	2	23.5
	3	1.5
	4	3.3
	5	5.2

年 度	平均点	標準偏差
令 3 (100点満点)	47.4	21.9





# 令和3年度 英 語

## 1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。また、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を正確に理解する力、自分の考えを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみるようにした。

## 2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「バランス良く設問が設定されており、英語を理解し英語で表現をする力を問う問題であった。」「英語の知識だけでなく、他教科や時事問題についての知識を総合して解答する問題であった。」などの意見があった。

設問については、「英語を聞き取る力、必要な情報を読み取る力、自分の考えを表現する力を問う問題で、バランスがよかった。」「日常生活において必要とされる英語力を問う問題で、コミュニケーション能力をみる意図が明確であった。」などの意見があった。

リスニングについては、「身近な英語使用場面を想定した問題であった。」「基本から発展までさまざまなレベルの問題で、力を測るのに適していた。」などの意見があった。

## 3 解答の分析

全体として、実際の言語の使用場面を想定した会話を聞いて、話し手の伝えたいことを理解する力や、身近な話題や社会的な話題についての英文を読んで大まかな内容や必要な情報をつかむ力、基本的な語彙を用いて簡単な内容を表現する力はある程度身に付いている。自分の考えをまとまりのある英文で表現する問題の正答率は上がったが、英文を聞いて自分の立場で考えを表現したりする問題の正答率は比較的低かった。実際のコミュニケーションを目的とした英語の運用能力が十分に身に付いていないと考えられる。より豊かな表現を可能にし、コミュニケーションをより充実できるようにするため、語彙や文構造の理解についてより一層の定着を図るとともに、それらを言語活動と効果的に関連付け、実際に活用できるように指導することが重要である。日ごろから、読んだり聞いたりした英文の内容を理解するだけでなく、自分なりの感想や意見などを表現するコミュニケーション活動をより一層充実させることが望まれる。

①の聞き取り問題では、身近な場面での会話を聞いて情報を聞き取る問題の正答率が高く、中学校の授業で英語を「聞く・話す」活動に積極的に取り組ませている成果が表れている。しかし、まとまりのある英文を聞いて、自分の立場で考えを表現する問題では正答率が低かった。まとまりのある英語を聞き、その内容について話し合うような活動を一層充実させることが望まれる。

②は、博物館のイベントの案内や駅での会話、博物館での説明を素材にして、情報を正確に読み取ったり、本文の流れに合わせて適切に表現したりする力などをみる問題であった。大まかな情報を読み取る問題や会話の流れにあう適切な語句を選ぶ問題では、比較的高い正答率であったが、会話の流れに即して基本的な語を抜き出す問題や語句を並べ替える問題では正答率が低かった。日ごろから、会話の流れや文脈を意識して英文を読むような活動の充実が望まれる。

③は、授業で読んだSDGsについての英文を素材にして、説明文の大切な部分などを正確に読み取る力、内容を把握し正しく文を書く力などをみる問題であった。英文の内容を大まかな理解を問う問題では正答率が高かったが、英文の内容を理解して自分の意見を表現する問題や英文流れを理解し適切な語句を抜き出す問題では正答率が低かった。まとまりのある英文を読んだり聞いたりして、内容について意見を述べ合ったり、感想などを示したりする活動を一層充実させることが望まれる。

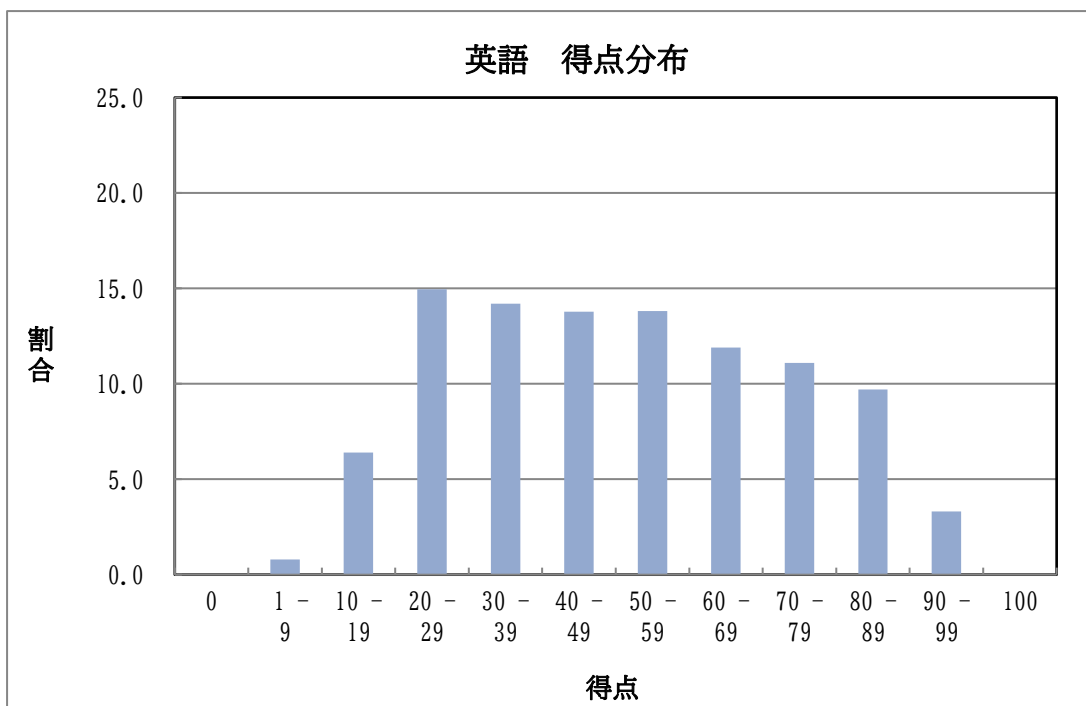
④は、英語の先生が授業で問いかけた学校生活の思い出について、自分の考えやその理由を表現する力を見る問題であった。正答率は上がったが、日ごろから、自分の考えを学習した表現を用いて述べ合う活動やまとまりのある英文を書く活動をさらに一層充実させることが望まれる。

## 英 語

問題区分		正答率 (%)		
①	その1	1	96.9	
		2	91.9	
		3	82.3	
		4	48.2	
	その2	41.9		
	その3	1	87.7	
		2	39.2	
		3	75.9	
		4	28.0	
	②	1	イ	52.8
			エ	71.0
		2	14.5	
3		22.1		
4		54.8		
5		45.9		
6		60.3		
7		30.1		

問題区分		正答率 (%)	
③	1	(1)	50.3
		(2)	21.0
	2	15.5	
	3	36.8	
	4	20.6	
	5	33.0	
6	ア	54.5	
	エ	67.9	
④		18.9	

年 度	平均点	標準偏差
令3 (100点満点)	50.5	22.6



資料 3-4

## 推薦選抜の出願倍率・合格率等の推移（年度別）

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02	R03
実施学科数 (のべ学校数)	9 (34)	9 (34)	9 (34)	10 (37)	10 (36)	10 (36)	10 (36)	9 (36)	8 (37)	8 (36)	8 (35)	8 (35)	8 (35)	8 (35)	8 (35)	8 (34)
実施小学科数 (のべ数)	29 (59)	27 (56)	27 (56)	33 (69)	33 (67)	32 (66)	32 (66)	31 (64)	20 (55)	20 (54)	20 (50)	20 (50)	20 (50)	20 (50)	20 (49)	19 (49)
募集定員	6,600	6,230	6,280	6,880	7,120	6,760	7,000	7,000	7,080	6,720	6,120	6,240	6,080	5,880	5,840	5,480
推薦募集枠	1,996	2,098	2,080	2,410	2,482	2,374	2,466	2,522	2,563	2,467	2,283	2,363	2,309	2,239	2,235	2,113
出願者数	2,575	2,288	2,369	2,495	2,696	2,520	2,707	2,658	2,698	2,704	2,477	2,485	2,585	2,446	2,342	2,285
出願倍率	1.29	1.09	1.14	1.04	1.09	1.06	1.10	1.05	1.05	1.10	1.08	1.05	1.12	1.09	1.05	1.08
入学許可 予定者数	1,878	1,937	1,884	2,147	2,254	2,165	2,266	2,264	2,319	2,311	2,113	2,179	2,158	2,089	2,061	1,966
合格率(%)	73.0	84.7	79.6	86.1	83.6	86.1	83.7	85.2	86.0	85.5	85.3	87.7	83.5	85.4	86.0	87.4

資料 3-5

## 特色選抜の出願倍率・合格率等の推移（年度別）

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02	R03
実施学科数 (学校数)	5 (15)	5 (15)	5 (15)	3 (12)	3 (12)	3 (12)	3 (12)	3 (12)	3 (12)	3 (13)	3 (14)	3 (14)	3 (14)	3 (14)	3 (14)	4 (15)
実施小学科数 (のべ数)	12 (38)	12 (28)	12 (28)	3 (15)	3 (15)	3 (15)	3 (15)	3 (15)	3 (15)	3 (16)	3 (17)	3 (17)	3 (17)	3 (17)	3 (17)	4 (18)
募集定員	4,200	4,080	4,120	3,240	3,360	3,240	3,240	3,280	3,400	3,640	4,080	4,080	4,080	3,960	3,369	3,640
特色募集枠	996	1,138	1,250	904	952	948	948	960	1,024	1,096	1,212	1,228	1,228	1,192	1,134	1,118
出願者数	4,282	3,690	3,930	3,560	3,557	3,449	3,484	3,508	3,517	3,711	4,019	4,161	4,180	3,971	3,847	3,832
出願倍率	4.30	3.24	3.14	3.94	3.74	3.64	3.68	3.65	3.43	3.39	3.32	3.39	3.40	3.33	3.39	3.43
入学許可 予定者数	996	1,138	1,250	904	952	948	948	960	1,024	1,096	1,212	1,228	1,228	1,189	1,130	1,118
合格率(%)	23.4	31.0	31.9	25.4	26.8	27.5	27.2	27.4	29.1	29.5	30.2	29.5	29.4	30.0	29.4	29.2

(参考：推薦選抜・特色選抜を併せた出願倍率と合格率の推移)

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02	R03
出願倍率	2.29	1.85	1.89	1.83	1.82	1.80	1.81	1.77	1.73	1.80	1.86	1.86	1.91	1.87	1.84	1.89
合格率(%)	41.9	51.4	49.8	50.4	51.3	52.2	51.9	52.3	53.8	53.1	51.2	51.3	50.1	51.1	51.6	50.5

資料 3-6

スポーツ・文化芸術選抜の出願倍率・合格率等の推移（年度別）

年度		H29	H30	H31	R02	R03
実施 学校 数	普通科	4	9	6	6	11
	専門学科	4	5	7	7	6
	総合学科	4	3	4	4	3
	(のべ数)	11 (12)	16 (17)	16 (17)	16 (17)	19 (20)
募集定員	推薦選抜に含む					
スポ文募集枠	93	149	164	178	174	
出願者数	98	142	132	127	144	
出願倍率	1.05	0.95	0.80	0.71	0.83	
入学許可 予定者数	77	114	115	119	132	
合格率(%)	78.6	80.3	87.1	93.7	91.7	

資料 3-7

## 一般選抜・二次選抜の受検倍率・合格率等の推移（年度別）

年度		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02	R03
一般選抜	学力検査募集定員	8,126	7,525	7,466	7,269	7,554	7,167	7,306	7,336	7,377	7,193	7,115	7,153	7,014	6,802	6,649	6,276
	確定出願者数	8,847	8,241	8,297	8,125	8,430	7,813	8,116	8,224	8,243	8,009	7,907	7,933	7,664	7,328	7,101	6,771
	出願確定倍率	1.09	1.10	1.11	1.12	1.12	1.09	1.11	1.12	1.12	1.11	1.11	1.11	1.09	1.08	1.07	1.07
	受検者数	8,809	8,203	8,259	8,095	8,410	7,792	8,097	8,173	8,218	7,988	7,879	7,914	7,642	7,317	7,090	6,713
	受検倍率	1.09	1.10	1.11	1.11	1.11	1.09	1.11	1.11	1.11	1.11	1.11	1.11	1.09	1.08	1.07	1.07
	入学許可予定者数	7,935	7,340	7,296	7,075	7,442	6,925	7,044	7,099	7,256	7,046	6,964	6,878	6,675	6,547	6,216	5,861
	合格率(%)	90.1	89.5	88.3	87.4	88.5	88.9	87.0	86.9	88.3	88.2	88.4	86.9	87.3	89.3	87.7	87.3
二次選抜	学力検査募集定員	191	186	170	194	112	242	262	237	121	147	151	275	339	255	433	416
	出願者数	163	165	188	161	123	129	163	151	117	143	134	158	128	121	109	102
	出願倍率	0.85	0.89	1.11	0.83	1.10	0.53	0.62	0.64	0.97	0.97	0.89	0.57	0.38	0.47	0.25	0.25
	受検者数	156	160	179	158	121	125	157	150	112	140	130	152	128	113	107	99
	受検倍率	0.82	0.86	1.05	0.81	1.08	0.52	0.60	0.63	0.93	0.95	0.86	0.55	0.38	0.47	0.25	0.24
	入学許可予定者数	116	96	116	102	89	111	122	124	74	100	113	123	106	87	99	87
定員充足率(%)		99.2	99.0	99.4	99.1	99.7	98.7	98.6	98.9	99.5	99.5	99.6	98.5	97.7	98.3	96.6	96.5

資料 3-8

## 一般選抜における出願変更率の推移（出願変更者…第1志望を取り下げた数）

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02	R03
出願変更率(%)	7.9	8.7	7.7	7.7	7.9	7.0	7.9	7.7	7.5	7.1	6.7	7.0	6.4	6.3	6.6	6.1
出願変更者数	700	721	642	631	667	552	642	632	620	572	536	560	495	467	413	471

資料 3-9

## 全国募集の状況

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02	R03
実施学科数 (のべ学校数)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
募集定員	5	5	5	5	5	5	5	5
出願者数	5	4	4	2	2	2	5	5
入学許可者数	5	4	4	2	2	2	5	5
出願都道府県	愛知 三重 京都 兵庫	三重 京都 大阪	神奈川 三重 京都 大阪	大阪 兵庫	兵庫	大阪 奈良	埼玉 大阪 兵庫	東京 三重 大阪 香川 沖縄

資料 3-10

## 県内中学校卒業予定者のうち、県立高校への入学許可予定者の占める割合

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02	R03
中学校卒業 予定者数	14,367	13,921	14,110	13,864	14,582	13,904	14,363	14,448	14,690	14,593	14,478	14,688	14,470	14,171	13,942	13,435
募集定員	11,000	10,600	10,600	10,320	10,760	10,280	10,520	10,560	10,720	10,600	10,440	10,560	10,400	10,080	9,840	9,360
入学許可 予定者総数	10,925	10,510	10,546	10,228	10,737	10,149	10,380	10,447	10,673	10,553	10,402	10,408	10,167	9,912	9,506	9,032
県立高校へ の進学率(%)	76.0	75.5	74.7	73.8	73.6	73.0	72.3	72.3	72.7	72.3	71.8	70.9	70.3	69.9	68.2	67.2
実入学者数	10,913	10,499	10,536	10,225	10,733	10,150	10,372	10,441	10,663	10,553	10,398	10,408	10,164	9,902	9,503	9,032
定員充足率	99.2	99.0	99.4	99.1	99.7	98.7	98.6	98.9	99.5	99.5	99.6	98.5	97.7	98.3	96.6	96.5

海外帰国生徒（海外帰国生徒、外国人生徒）の出願等の状況

年度		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02	R03	
海外帰国生徒	出願	推薦選抜	0	1	3	2	1	0	0	1	0	1	3	0
		特色選抜	2	4	2	5	2	3	3	0	1	0	0	0
		スポ文選抜	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0
		一般選抜	5	12	10	13	9	18	10	10	11	11	9	8
		二次選抜	0	0	0	1	1	2	0	0	1	0	0	1
		合計	7	17	15	21	13	23	13	11	13	12	12	9
	入学許可予定者 (実学校数)	6 (6)	14 (6)	12 (7)	15 (9)	10 (9)	7 (10)	11 (9)	10 (7)	12 (10)	11 (10)	11 (9)	9 (3)	
外国人生徒	出願	推薦選抜	4	1	4	1	6	3	1	1	4	6	3	3
		特色選抜	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	1	1
		スポ文選抜	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0
		一般選抜	32	27	28	18	12	13	17	16	19	15	12	8
		二次選抜	1	3	1	2	1	0	8	5	0	0	0	0
		合計	36	32	35	21	19	16	27	22	23	21	16	12
	入学許可予定者 (実学校数)	32 (12)	29 (15)	32 (11)	19 (10)	18 (8)	12 (9)	24 (10)	19 (9)	21 (5)	20 (6)	13 (5)	8 (2)	

※海外帰国生徒等取扱措置願の提出状況による集計

定時制の状況

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02	R03	
募集定員	280	280	280	280	280	280	280	280	280	280	280	280	280	280	280	280	
推薦選抜実施校	1校	1校	1校	1校	1校	1校	1校	1校	1校	1校	1校	1校	1校	1校	1校	1校	
一般/推薦 入学許可予定者数	148	162	165	190	190	176	162	161	214	219	224	189	171	179	179	133	
二次選抜	募集定員	132	118	115	90	90	104	118	119	66	61	56	91	109	101	147	
	出願者数	61	36	71	28	70	35	44	52	46	58	35	18	14	12	6	
	受検者数	58	35	68	25	69	35	42	51	45	56	35	18	14	11	6	
	入学許可 予定者数	57	35	64	25	68	35	42	51	35	36	34	18	14	11	6	
入学許可 予定者数	総数	205	197	229	215	258	211	204	212	249	255	258	207	185	190	180	139
	定時制充足率 (%)	73.2	70.4	81.8	76.8	92.1	75.4	72.9	75.7	88.9	91.1	92.1	73.9	66.1	67.9	63.9	49.6
	定時制不足数	-75	-83	-51	-65	-22	-69	-76	-68	-31	-25	-22	-73	-95	-90	-101	-141



## 単位制 転・編入学、通信制課程の状況

年度		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02	R03	
転 編 入 学	一次選抜	募集定員	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	
		出願者数	42	35	44	41	52	35	42	36	31	34	17	27	17	8	16	18
		入学許可者数	37	35	40	40	40	35	40	35	31	32	16	25	17	8	16	17
	二次選抜	出願者数	3	2	—	—	—	2	—	5	1	2	2	1	1	0	1	1
		入学許可者数	3	2	—	—	—	2	—	5	1	2	2	1	1	—	1	1
	総計	入学許可者数 合計	40	37	40	40	40	37	40	40	32	34	18	26	18	8	17	18
		募集定員との差	0	-3	0	0	0	-3	0	0	-8	-6	-22	-14	-22	-32	-23	-22
通 信 制 課 程	一次選抜	募集定員	320	320	320	320	320	320	320	320	320	320	320	320	320	320	320	
		出願者数	241	191	226	203	234	208	182	176	151	153	120	128	133	156	127	127
		入学許可者数	241	191	225	203	234	208	182	176	151	153	120	128	133	156	127	127
	二次選抜	出願者数	89	63	101	92	54	26	51	46	42	46	29	27	31	38	19	19
		入学許可者数	89	63	101	92	54	26	51	46	42	46	29	27	31	38	19	19
	総計	入学許可者数 合計	330	254	326	295	288	234	233	222	193	199	149	155	164	194	146	146
		募集定員との差	10	-66	6	-25	-32	-66	-87	-98	-127	-121	-171	-165	-156	-126	-174	-174